

ScandAll PRO について説明しています。

お使いになる  
前に

ScandAll PRO を使用して原稿を読み取る  
方法について説明しています。

ScandAll PRO で  
の読み取り方法

# ScandAll PRO V2.1

## ユーザーズガイド



# 本書の使い方

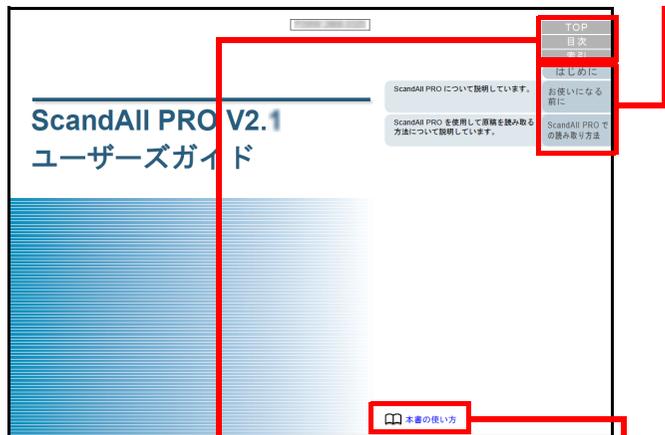
本書の使い方について説明します。

- 本書を表示 / 印刷するには、アドビ システムズ社の Adobe® Acrobat® 7.0 以降または Adobe® Reader® 7.0 以降が必要です。
- 本文中の検索は、Adobe® Acrobat® または Adobe® Reader® の検索機能が使えます。  
詳細は、Adobe® Acrobat® または Adobe® Reader® のヘルプを参照してください。
- キーボードを使う場合は、「PageUp」キーで前ページ、「PageDown」キーで次ページに移動します。

- 本文中の青字 / ツメの文字列（マウスがリンク選択時の形状（ など）に変わる箇所）をクリックすると、参照先に移動します。

- 共通ページ

各章の先頭ページに移動します。  
このツメは全ページにあります。



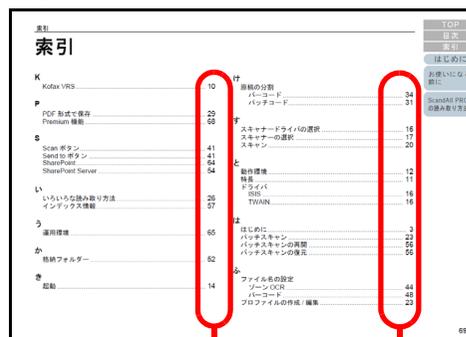
- TOP : 表紙ページに移動します。
- 目次 : 目次ページに移動します。
- 索引 : 索引ページに移動します。
- このツメは全ページにあります。
- 本書の使い方ページに移動します。
- 本文中の青字をクリックすると、参照先に移動します。

- 目次ページ



クリックしたタイトルのページに移動します。

- 索引ページ



クリックした索引のページに移動します。

# はじめに

このたびは、ScandAll PRO をご利用いただき、誠にありがとうございます。

本書の内容は、ScandAll PRO のアップデートに伴い、変更になる場合があります。

最新の ScandAll PRO ユーザーズガイドは、次のホームページからダウンロードできます。ダウンロードするには、インターネットに接続する環境が必要です。

<http://imagescanner.fujitsu.com/jp/brochures/>

## 本製品について

ScandAll PRO は、業務用 イメージ スキャナー fi シリーズで読み取った画像を一覧表示したり、編集したりするためのアプリケーションです。

本書では、ScandAll PRO を使用して、業務用 イメージ スキャナー fi シリーズで読み取りを行う方法について説明しています。

ScandAll PRO の詳細機能については、ScandAll PRO のヘルプを参照してください。

## 商標および登録商標

Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Vista、および SharePoint は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。ISIS は、Open Text の商標です。

Adobe、Acrobat、および Reader は、Adobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

Intel および Intel Core は、アメリカ合衆国および / またはその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標です。

ABBYY™ FineReader™ Engine © ABBYY. OCR by ABBYY ABBYY および FineReader は、いくつかの法域で登録されている場合がある ABBYY Software Ltd. の商標です。

Kofax および VRS は、Kofax Limited の登録商標または商標です。

QR コードは、株式会社デンソーウェブの登録商標です。PaperStream は、株式会社 PFU の日本における登録商標です。

その他の社名、製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

## 開発・販売元

株式会社 PFU

〒220-8567

神奈川県横浜市西区みなとみらい 4-4-5

(横浜アイマークプレイス)

© PFU Limited 2011-2018

## ハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。お客様がハイセイフティ用途に本製品を使用したことにより発生する損害につきましては、お客様または第三者からのいかなる請求または損害賠償に対しても当社は一切その責任を負いません。

# 本書をお読みになる前に

## 本書での略記

本書では、次の名称について省略して記載しています。

名称	本文中の表記
Windows Vista® Home Basic (32/64 ビット)	Windows Vista (*1)
Windows Vista® Home Premium (32/64 ビット)	
Windows Vista® Business (32/64 ビット)	
Windows Vista® Enterprise (32/64 ビット)	
Windows Vista® Ultimate (32/64 ビット)	
Windows Server® 2008 Standard (32/64 ビット)	Windows Server 2008 (*1)
Windows Server® 2008 R2 Standard (64 ビット)	
Windows® 7 Home Premium (32/64 ビット)	Windows 7 (*1)
Windows® 7 Professional (32/64 ビット)	
Windows® 7 Enterprise (32/64 ビット)	
Windows® 7 Ultimate (32/64 ビット)	

名称	本文中の表記
Windows Server® 2012 Standard (64 ビット)	Windows Server 2012 (*1)
Windows Server® 2012 R2 Standard (64 ビット)	
Windows® 8 (32/64 ビット)	Windows 8 (*1)
Windows® 8 Pro (32/64 ビット)	
Windows® 8 Enterprise (32/64 ビット)	
Windows® 8.1 (32/64 ビット)	Windows 8.1 (*1)
Windows® 8.1 Pro (32/64 ビット)	
Windows® 8.1 Enterprise (32/64 ビット)	
Windows® 10 Home (32/64 ビット)	Windows 10 (*1)
Windows® 10 Pro (32/64 ビット)	
Windows® 10 Enterprise (32/64 ビット)	
Windows® 10 Education (32/64 ビット)	
Windows Server® 2016 Standard (64 ビット)	Windows Server 2016 (*1)

名称	本文中の表記	
Microsoft® Office SharePoint® Server 2007	SharePoint Server	SharePoint
Microsoft® SharePoint® Server 2010		
Microsoft® Windows® SharePoint® Services 3.0		
Microsoft® SharePoint® Foundation 2010		
Microsoft® SharePoint® Online		
Adobe® Acrobat®	Adobe Acrobat	
Adobe® Acrobat® DC		
Adobe® Reader®	Adobe Reader	
Adobe® Acrobat® Reader® DC		

\*1：すべてのオペレーティングシステムを区別しないで使用する場合は、Windows と表記しています。

## 連続する操作の表記

本文中の操作手順で、連続する操作手順を「→」でつなげて記載しています。

例：「スキャン」メニュー → 「ドライバの設定」をクリックします。

## 本書に掲載している画面

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

画面は、改善のため予告なく変更することがあります。

表示された画面が、本書に掲載している画面と異なる場合は、対象ソフトウェアのマニュアルを参考にして、実際の画面に従って操作してください。

なお、本書に掲載している画面は、TWAIN ドライバ、ISIS ドライバ、および ScandAll PRO（画像読み取り用アプリケーション）のものです。

本書では、Windows Vista の画面を例に説明しています。お使いのオペレーティングシステムによって表示される画面および操作が異なります。また、スキャナーによっては、TWAIN ドライバ、ISIS ドライバをアップデートすると、本書に掲載している画面および操作が異なることがあります。その場合は、アップデート時に提供されるマニュアルを参照してください。

## 本書に記載されているスキャナーの各部名称

本書で記載されているスキャナーのボタン、および操作パネル部のディスプレイは、お使いのスキャナーによっては名称が異なります。

本書に記載されている名称が実際の名称と異なる場合は、お使いのスキャナーのオペレーターガイドを参照してください。

# 目次

本書の使い方 .....	2
はじめに .....	3
本書をお読みになる前に .....	5
<b>第 1 章 お使いになる前に .....</b>	<b>9</b>
<b>1.1 概要 .....</b>	<b>10</b>
<b>1.2 特長 .....</b>	<b>11</b>
多彩なスキャン設定 .....	11
用途に合わせた表示 / 編集 / 保存 .....	11
便利な機能 .....	11
<b>1.3 動作環境 .....</b>	<b>12</b>
動作環境 .....	12
サポート機種 .....	13
<b>1.4 起動 .....</b>	<b>14</b>
<b>第 2 章 ScandAll PRO での読み取り方法 .....</b>	<b>15</b>
<b>2.1 スキャナードライバの選択 .....</b>	<b>16</b>
<b>2.2 スキャナーの選択 .....</b>	<b>17</b>
<b>2.3 読み取り条件の設定 .....</b>	<b>18</b>
<b>2.4 読み取り方法の種類 .....</b>	<b>19</b>
スキャン .....	19
バッチスキャン .....	19
<b>2.5 読み取り方法（スキャン） .....</b>	<b>20</b>
<b>2.6 読み取り方法（バッチスキャン） .....</b>	<b>23</b>
プロファイルの作成 / 編集 .....	23
読み取りの実行 .....	25

<b>2.7</b>	<b>いろいろな読み取り方法</b> .....	<b>26</b>
	読み取り方一覧 .....	26
	ADF 両面（仮想）読み取り機能を使用して原稿を読み取りたいとき（fi-6750S / fi-7700S） .....	27
	読み取った画像を PDF 形式で保存したいとき .....	29
	パッチコードを使って原稿を分割したいとき .....	31
	バーコードを使って原稿を分割したいとき .....	34
	スキャナーのボタンで読み取りを開始したいとき .....	41
	ゾーン OCR の認識結果を使ってファイル名を設定したいとき .....	44
	バーコードの認識結果を使ってファイル名を設定したいとき .....	48
	バッチスキャンごとに格納フォルダーを作成したいとき .....	52
	バッチスキャンを実行して SharePoint Server に格納したいとき .....	54
	中断したバッチスキャンを再開したいとき .....	56
	インデックス情報を出力しアプリケーションと連携したいとき .....	57
	読み取った原稿の異常を検出したいとき（fi-6800） .....	61
<b>2.8</b>	<b>読み取り後の便利な機能</b> .....	<b>63</b>
	サムネイルにマークを付加する .....	63
	読み取った画像を SharePoint に格納する .....	64
<b>2.9</b>	<b>運用環境の移出入</b> .....	<b>65</b>
	運用環境を移出する .....	65
	運用環境を移入する .....	66
<b>2.10</b>	<b>Premium 機能が有効になる条件</b> .....	<b>68</b>
<b>索引</b>	.....	<b>69</b>

# 第 1 章 お使いになる前に

---

この章では、概要、特長、および起動方法について説明します。

1.1 概要 .....	10
1.2 特長 .....	11
1.3 動作環境 .....	12
1.4 起動 .....	14

## 1.1 概要

ScandAll PRO とは、TWAIN/ISIS 両規格に対応した画像読み取り用アプリケーションです。ScandAll PRO を使えば、スキャナーから原稿を読み取って画像にできます。

TWAIN ドライバ/ISIS ドライバ/PaperStream IP (TWAIN) ドライバ/PaperStream IP (ISIS) ドライバ/Kofax VRS (\*1) の設定で、スキャナーから原稿を読み取って画像にできます。読み取るためには TWAIN ドライバ/ISIS ドライバ/PaperStream IP (TWAIN) ドライバ/PaperStream IP (ISIS) ドライバ/Kofax VRS が必要です。

スキャナーの読み取り処理の設定をプロファイルに登録し、業務内容に応じた読み取り処理を実行できます。定型業務で使用されている紙文書（帳票や申請書類など）の電子化に適しています。（対象：会社全体 / 部門単位）

\*1：簡単な操作で高品質な画像を生成するアプリケーションです。原稿読み取り時に発生する原稿の傾き、色または網がけによる文字のつぶれなどをチェックし、自動的に補正します。使用しているスキャナーが Kofax VRS に対応している場合に、Kofax VRS を利用できます。

### ヒント

ScandAll PRO の機能詳細については、ScandAll PRO のヘルプを参照してください。

## 1.2 特長

ScandAll PRO の主な特長を次に示します。

### 多彩なスキャン設定

- バッチ処理（バッチスキャン）によって、スキャナーの読み取り条件、ファイル形式、および保存先などを指定した読み取りができます。設定した内容は、プロファイルとして保存できます。
- ホットキーを設定することによって、キーボードからワンタッチでバッチスキャンを実行できます。
- イベントを設定することで、スキャナーの [Scan] ボタンおよび [Send to] ボタンからワンプッシュでバッチスキャンを実行できます。

### 用途に合わせた表示 / 編集 / 保存

- 複数のファイルを並べて表示することで、ファイルの比較が簡単にできます。
- 読み取った画像を編集できます。編集したデータは、保存し直したり、読み取り時とは異なる名前やファイル形式で保存したりできます（PDF ファイルを開いて編集した場合は、他ファイル形式での保存はできません）。
- 一度の読み取りで、カラー / 2 値白黒画像を同時出力できます（マルチイメージ出力機能に対応しているスキャナー使用時）。
- BMP ファイル、JPEG ファイル、JPEG2000 ファイル、TIFF ファイル、PDF ファイル、および PDF/A ファイルの入力 / 出力ができます。  
PDF ファイルおよび PDF/A ファイルは、検索可能な PDF ファイルや高圧縮 PDF ファイルとしても出力できます。

### 便利な機能

- FTP サーバや SharePoint と連携すれば、読み取った画像を指定したサーバに自動的に格納できます。
- メールソフトと連携すれば、読み取った画像をメールに添付して送信できます。
- パッチコードやバーコードを使用すれば、指定した原稿単位でページが分割され、異なるファイルに保存できます。

- 読み取った画像のバーコードの認識、またはゾーン OCR による文字認識ができます。どちらも認識結果をインデックス情報ファイルに出力したり、読み取った画像のファイル名として設定したりできます。
- 出力した画像ファイルやインデックス情報ファイルをパラメーターとして、指定したアプリケーションプログラムを呼び出せます。
- 読み取った画像に異常がある場合、サムネイルの背景色を変更することでユーザーに通知します（fi-6800 限定）。
- 読み取った画像のサムネイルにマークを付加することで、読み取った画像を簡単に選別できます。
- 運用環境の移出入機能を使用すれば、現在使用しているコンピュータ内の ScandAll PRO と同じ運用環境を、ほかのコンピュータ内の ScandAll PRO に設定できます。  
複数台のコンピュータに同じ環境を設定する場合は、各コンピュータに同じ運用環境を移入するだけでいいので、1 台ごとに細かい設定をする必要がなく便利です。

## 1.3 動作環境

### 動作環境

ScandAll PRO の動作環境を次に示します。

オペレーティングシステム (*1)	Windows Vista® Home Basic (32/64 ビット) (Service Pack 2 以降) Windows Vista® Home Premium (32/64 ビット) (Service Pack 2 以降) Windows Vista® Business (32/64 ビット) (Service Pack 2 以降) Windows Vista® Enterprise (32/64 ビット) (Service Pack 2 以降) Windows Vista® Ultimate (32/64 ビット) (Service Pack 2 以降) Windows Server® 2008 Standard (32/64 ビット) (Service Pack 2 以降) Windows Server® 2008 R2 Standard (64 ビット) (Service Pack 1 以降) Windows® 7 Home Premium (32/64 ビット) (Service Pack 1 以降) Windows® 7 Professional (32/64 ビット) (Service Pack 1 以降) Windows® 7 Enterprise (32/64 ビット) (Service Pack 1 以降) Windows® 7 Ultimate (32/64 ビット) (Service Pack 1 以降) Windows Server® 2012 Standard (64 ビット) Windows Server® 2012 R2 Standard (64 ビット) Windows® 8 (32/64 ビット) Windows® 8 Pro (32/64 ビット) Windows® 8 Enterprise (32/64 ビット)
-------------------	---

オペレーティングシステム (*1)	Windows® 8.1 (32/64 ビット) Windows® 8.1 Pro (32/64 ビット) Windows® 8.1 Enterprise (32/64 ビット) Windows® 10 Home (32/64 ビット) Windows® 10 Pro (32/64 ビット) Windows® 10 Enterprise (32/64 ビット) Windows® 10 Education (32/64 ビット) Windows Server® 2016 Standard (64 ビット)
CPU	Intel® Core™2 Duo 2.2GHz 以上推奨
メモリ容量	2GB 以上推奨
ディスプレイ解像度 (*2)	1024 × 768 ピクセル以上、65536 色以上が表示可能なディスプレイ
ディスク容量	1.3GB 以上の空き容量が必要 (*3)

\*1 : 64 ビットオペレーティングシステムについては、64 ビットオペレーティングシステム上で動作する 32 ビットアプリケーションとしてサポートします。

\*2 : フォント サイズが大きい場合、一部の画面が正常に表示されないことがあります。この場合は、フォント サイズを小さくして使用してください。

\*3 : 原稿の読み取り時には、保存されるファイルサイズに応じたディスク容量が必要となります。

## サポート機種

ScandAll PRO で読み取りできるスキャナーを次に示します。

fi-5950 / fi-6800 / fi-6400 / fi-7700 / fi-7700S / fi-7600 / fi-6770 /  
fi-6770A / fi-6750S / fi-6670 / fi-6670A / fi-7480 / fi-7460 /  
fi-5530C2 / fi-7300NX / fi-7180 / fi-7160 / fi-7140 / fi-7280 /  
fi-7260 / fi-7240 / fi-7030 / fi-6110 / fi-6140Z / fi-6130Z /  
fi-6240Z / fi-6230Z / fi-5015C / fi-6140 / fi-6130 / fi-6240 /  
fi-6230

TOP

目次

索引

はじめに

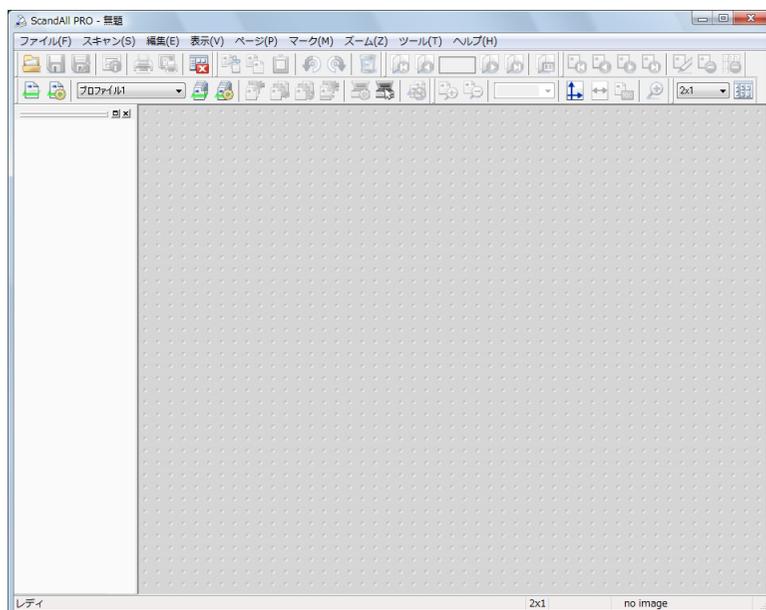
お使いになる  
前に

ScandAll PRO で  
の読み取り方法

## 1.4 起動

ScandAll PRO の起動方法を次に示します。

- 1 「スタート」メニュー → 「すべてのプログラム」 → 「Fujitsu ScandAll PRO」 → 「ScandAll PRO」をクリックします。  
⇒ ScandAll PRO が起動されます。



# 第 2 章 ScandAll PRO での読み取り方法

---

この章では、ScandAll PRO を使用してスキャナーから原稿を読み取る方法について説明します。

2.1 スキャナードライバの選択 .....	16
2.2 スキャナーの選択 .....	17
2.3 読み取り条件の設定 .....	18
2.4 読み取り方法の種類 .....	19
2.5 読み取り方法（スキャン） .....	20
2.6 読み取り方法（バッチスキャン） .....	23
2.7 いろいろな読み取り方法 .....	26
2.8 読み取り後の便利な機能 .....	63
2.9 運用環境の移出入 .....	65
2.10 Premium 機能が有効になる条件 .....	68

## 2.1 スキャナードライバの選択

業務用 イメージ スキャナー fi シリーズは、次のスキャナードライバに対応しています。

- TWAIN ドライバ (TWAIN 規格に準拠)
- ISIS ドライバ (ISIS 規格に準拠)
- PaperStream IP (TWAIN) ドライバ (TWAIN 規格に準拠)
- PaperStream IP (ISIS) ドライバ (ISIS 規格に準拠)
- Kofax VRS

この章では、例として TWAIN ドライバまたは ISIS ドライバを使用して原稿を読み取る操作の流れについて説明します。

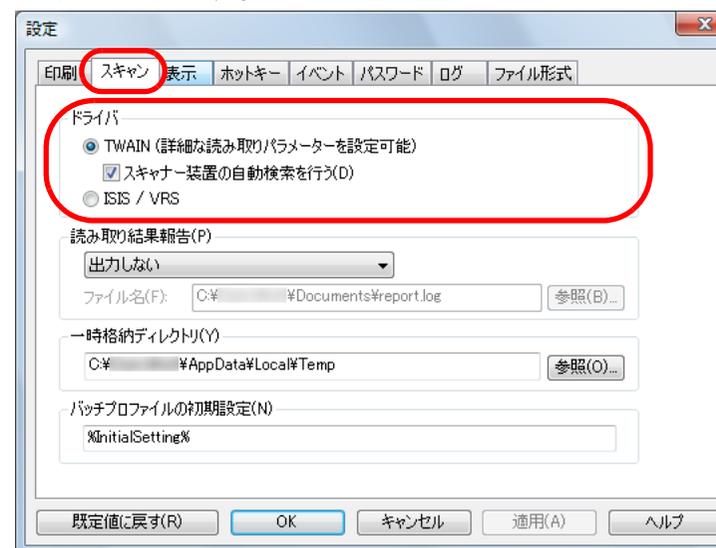
TWAIN ドライバと ISIS ドライバには特に大きな機能差はないため、どちらか使いやすい方を選択して使用してください。

### ヒント

- ScandAll PRO のデフォルトでは、「TWAIN」が選択されています。
- TWAIN ドライバの機能の詳細については、TWAIN ドライバのヘルプを参照してください。
- ISIS ドライバの機能の詳細については、ISIS ドライバのヘルプを参照してください。
- PaperStream IP (TWAIN/ISIS) ドライバの詳細については、PaperStream IP ドライバのヘルプを参照してください。
- Kofax VRS の詳細については、Kofax VRS のヘルプを参照してください。
- 使用しているスキャナーが Kofax VRS に対応している場合に、Kofax VRS を利用できます。

次に、ScandAll PRO で使用するスキャナードライバの選択方法について説明します。

- 1 「ツール」メニュー→「設定」をクリックします。  
⇒「設定」画面が表示されます。
- 2 「スキャン」タブの「ドライバ」で、使用するドライバをクリックします。



- 3 [OK] ボタンをクリックして、設定を保存します。

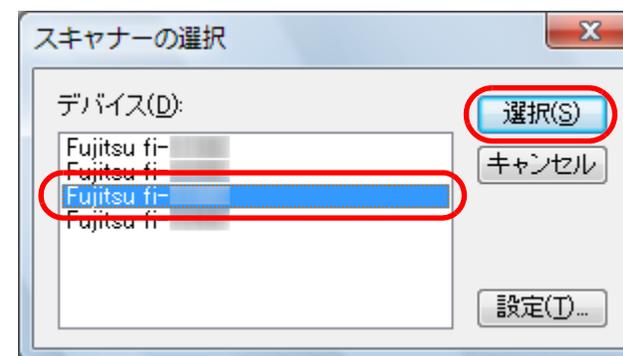
## 2.2 スキャナーの選択

スキャナーで原稿を読み取る前に、使用するスキャナーを選択する必要があります。

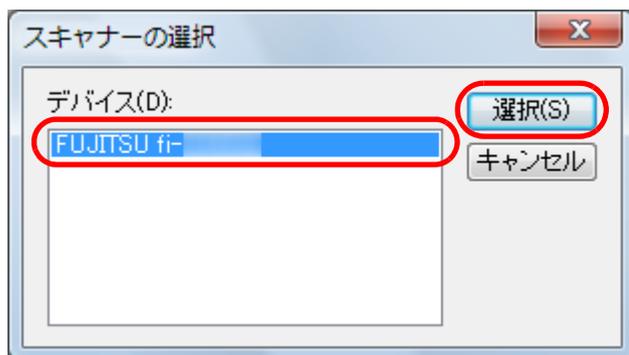
次に、その方法について説明します。

- 1 「スキャン」メニュー → 「スキャナーの選択」をクリックします。  
⇒ 「スキャナーの選択」画面が表示されます。
- 2 使用するスキャナー名を選択し、[選択] ボタンをクリックします。  
コンピュータに接続したスキャナーを選択します。表示されるスキャナー名は、使用するスキャナードライバによって異なります。

ISIS ドライバの場合



TWAIN ドライバの場合



## 2.3 読み取り条件の設定

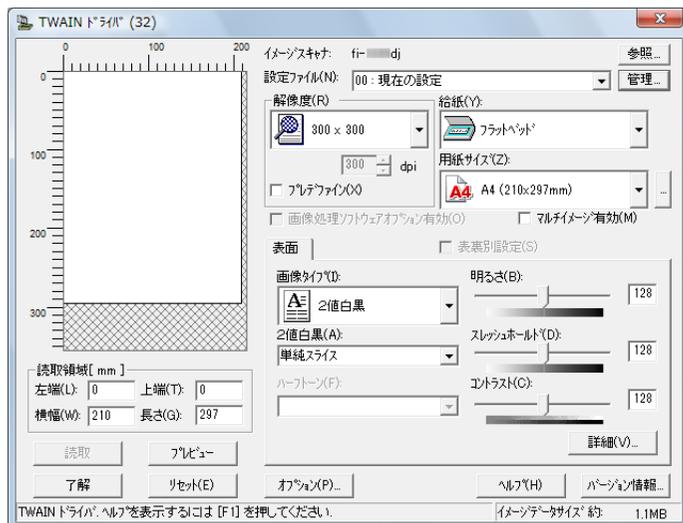
スキャナーの読み取りに関する条件は、スキャナードライバの設定画面で設定します。

### ヒント

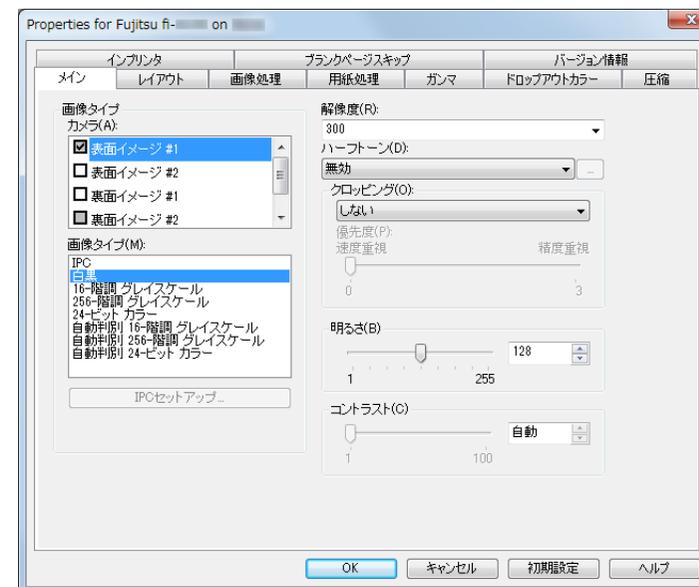
スキャナードライバの設定画面の仕様は、スキャナーによって異なります。詳細は、お使いのスキャナーのオペレーターガイドを参照してください。

- 1 「スキャン」メニュー → 「ドライバの設定」をクリックします。  
⇒ スキャナードライバの設定画面が表示されます。

TWAIN ドライバの場合



ISIS ドライバの場合



設定できる項目については、お使いのスキャナーのオペレーターガイドを参照してください。

- 2 読み取り条件の設定が終わったら、TWAIN ドライバの場合は、[了解] ボタンをクリックします。ISIS ドライバの場合は、[OK] ボタンをクリックします。  
⇒ 読み取り条件が設定されます。

## 2.4 読み取り方法の種類

ScandAll PRO を使用してスキャナーから原稿を読み取るには、2つの方法があります。

### スキャン

スキャンでは、複雑な設定をしなくても簡単に原稿を読み取りできます。

ファイルの保存形式、保存先、および読み取り条件などの設定内容を、必要に応じて変更して読み取りできます。

詳細については、「[2.5 読み取り方法（スキャン）](#)」（P.20）を参照してください。

### バッチスキャン

バッチスキャンでは、事前に読み取りや保存に関する条件をプロファイルとして登録しておき、そのプロファイルを使って原稿を読み取ります。

プロファイルを登録しておくことで、原稿を読み取るたびに読み取り条件を設定する必要がなくなります。プロファイルは複数登録できるので、作業内容に応じたプロファイルを選択するだけで、目的にあった読み取り条件に簡単に切り替えられます。

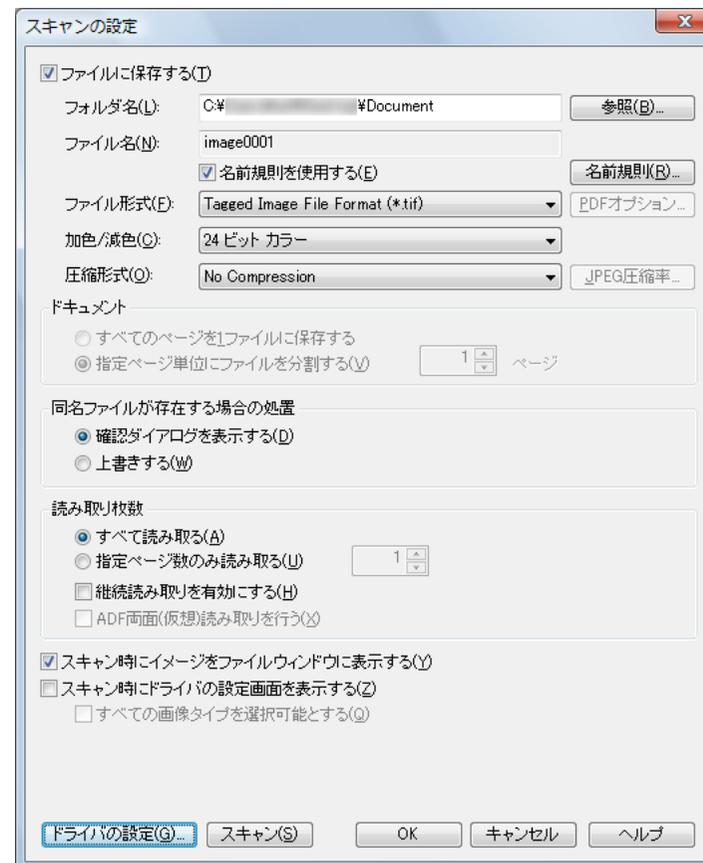
詳細については、「[2.6 読み取り方法（バッチスキャン）](#)」（P.23）を参照してください。

## 2.5 読み取り方法（スキャン）

スキャンでは、ファイルの保存形式、保存先、および読み取り条件などの設定内容は、必要に応じて変更して読み取りできます。

- 1 スキャナーに原稿をセットします。  
原稿をセットする方法については、お使いのスキャナーのオペレーターガイドを参照してください。
- 2 「スキャン」メニュー → 「スキャンの設定」をクリックします。  
⇒ 「スキャンの設定」画面が表示されます。

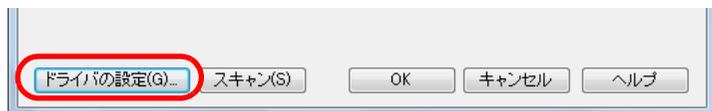
- 3 「スキャンの設定」画面で、読み取った画像の保存方法などを設定します。



### ヒント

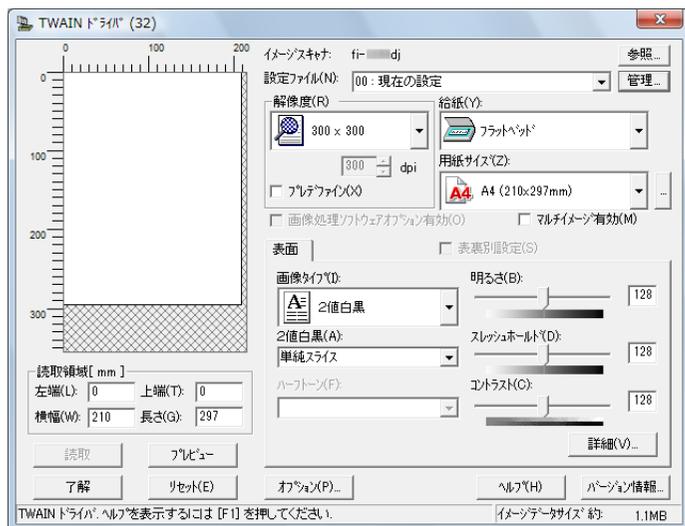
各設定項目の詳細については、ScandAll PRO のヘルプを参照してください。

4 [ドライバの設定] ボタンをクリックします。

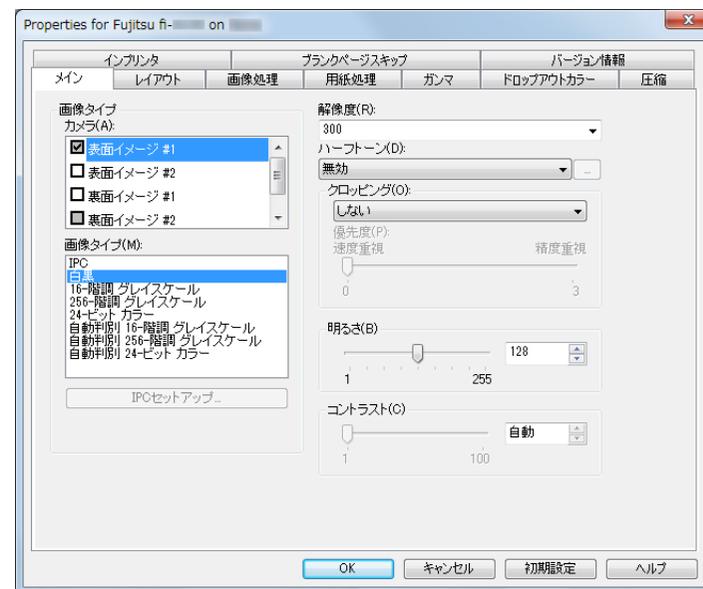


⇒ スキャナードライバの設定画面が表示されます。

TWAIN ドライバの場合



ISIS ドライバの場合



- 5 読み取り条件を設定します。  
設定項目については、お使いのスキナーのオペレーターガイドを参照してください。
- 6 読み取り条件の設定が終わったら、TWAIN ドライバの場合は、[了解] ボタンをクリックします。  
ISIS ドライバの場合は、[OK] ボタンをクリックします。  
⇒ 「スキヤンの設定」画面に戻ります。

## 7 [スキャン] ボタンをクリックします。

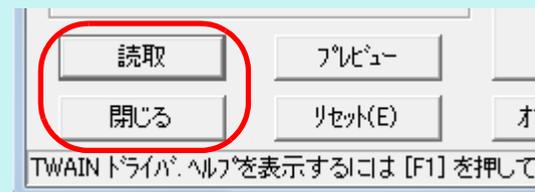


### 重要

- 読み取り中は、USB 機器を抜き差ししないでください。
- 読み取り中は、ユーザー切り替えを行わないでください。読み取りがキャンセルされます。

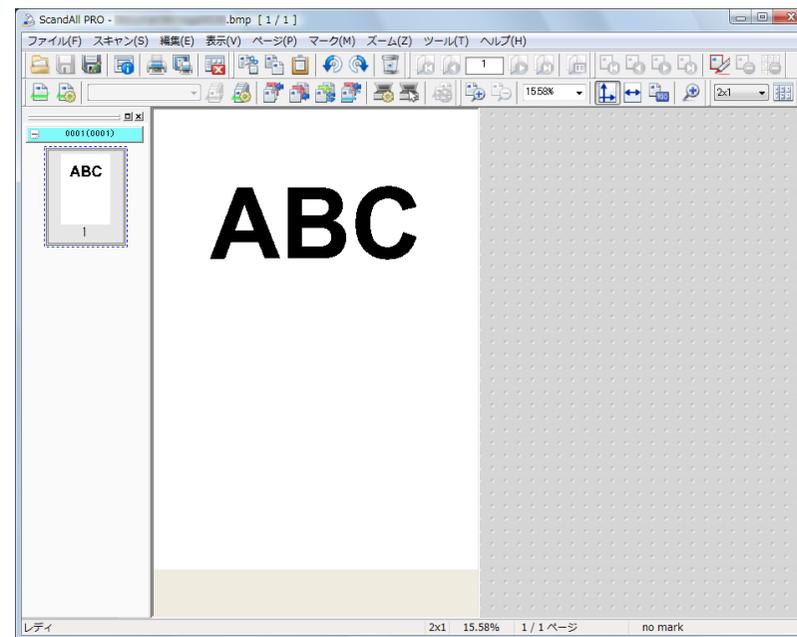
### ヒント

TWAIN ドライバの場合、[スキャン] ボタンをクリックすると、スキャナードライバの設定画面が表示される場合があります。この場合、ここで読み取り条件の設定を変更することもできます。読み取りを実行するには、[読取] ボタンをクリックします。読み取りが完了したら、[閉じる] ボタンをクリックします。



なお、ここでスキャナードライバの設定画面を表示させたくない場合は、「スキャンの設定」画面にある「スキャン時にドライバの設定画面を表示する」チェックボックスのチェックを外してください。

⇒ スキャナーで読み取った原稿の画像が ScandAll PRO の画面に表示され、ファイルに保存されます。



### ヒント

- 「スキャンの設定」画面で「ファイルに保存する」チェックボックスのチェックを外した場合は、ファイルには保存されません。ファイルに保存する場合は、「ファイル」メニュー → 「名前を付けて保存」で保存処理を行ってください。
- 以降同じ条件で読み取る場合は、「スキャン」メニュー → 「スキャン」をクリックします。
- ScandAll PRO の機能および操作については、ScandAll PRO のヘルプを参照してください。

「スキャン」以外の読み取り操作については、「2.7 いろいろな読み取り方法」(P.26) を参照してください。

## 2.6 読み取り方法（バッチスキャン）

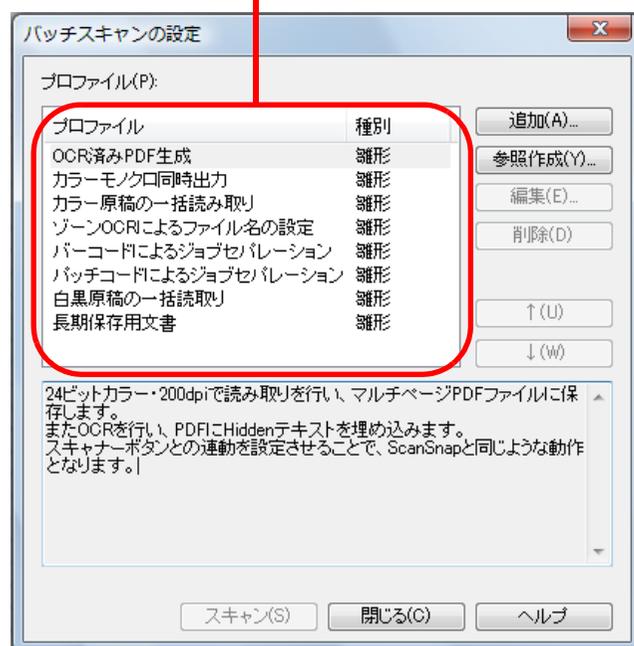
バッチスキャンでは、事前に読み取りや保存に関する条件をプロファイルとして登録しておき、そのプロファイルを使って読み取ります。

### プロファイルの作成 / 編集

1 「スキャン」メニュー → 「バッチスキャンの設定」をクリックします。

⇒ 「バッチスキャンの設定」画面が表示されます。

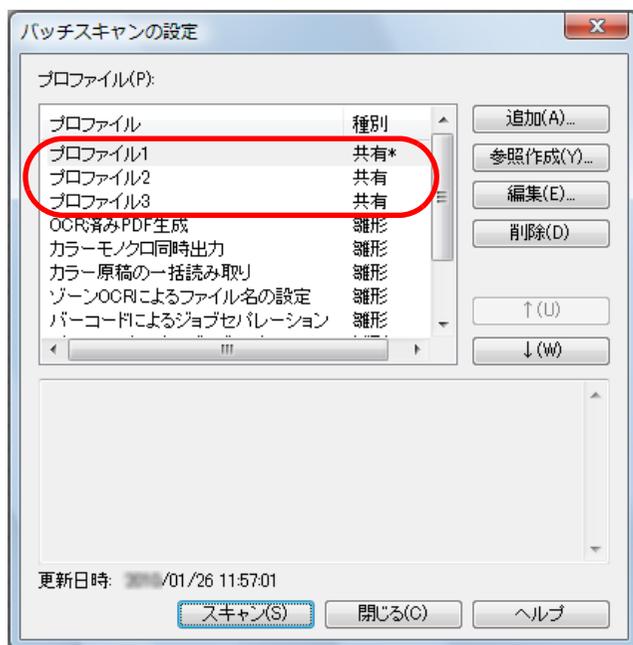
プロファイル一覧



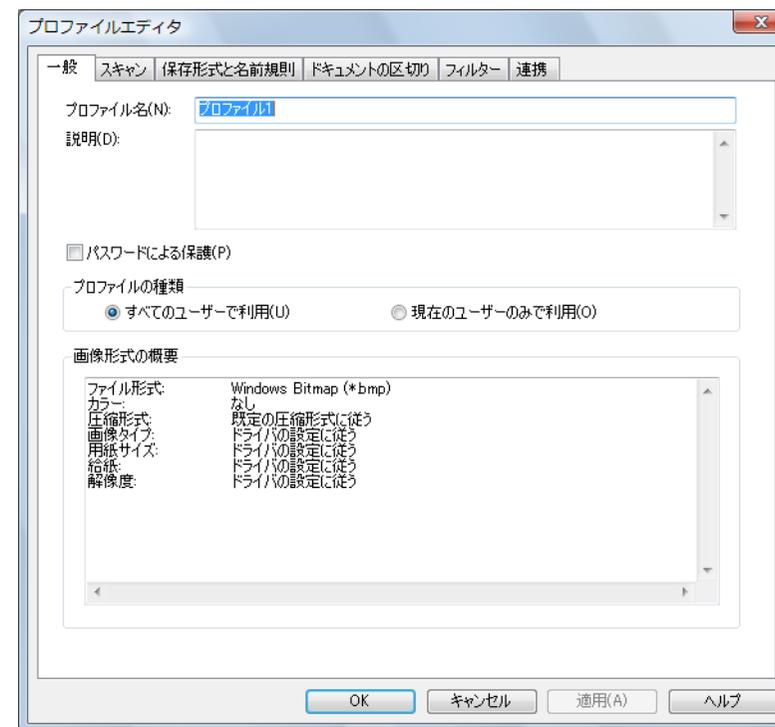
2 次の操作を行います。

- デフォルトのプロファイルを引用して新しくプロファイルを作成する場合  
[追加] ボタンをクリックします。  
⇒ デフォルトの設定内容が「プロファイルエディタ」画面に表示されます。
- 既存のプロファイルを参照して新しくプロファイルを作成する場合  
プロファイル一覧から参照するプロファイル名をクリックして、[参照作成] ボタンをクリックします。  
⇒ クリックしたプロファイル名と同じ設定内容の新規プロファイルが「プロファイルエディタ」画面に表示されます。
- 既存のプロファイルを設定変更する場合  
プロファイル一覧から参照するプロファイル名をクリックして、[編集] ボタンをクリックします。  
⇒ クリックしたプロファイルが「プロファイルエディタ」画面に表示されます。
- 既存のプロファイルを一覧から削除する場合  
プロファイル一覧から削除するプロファイル名をクリックして、[削除] ボタンをクリックします。  
⇒ クリックしたプロファイルが削除されます。

プロファイルを設定すると、プロファイル一覧に追加されます。



### 3 「プロファイルエディタ」画面で、読み取り条件や、読み取ったファイルの保存方法などを設定します。



#### ヒント

- プロファイル一覧の「種別」に「雛形」と表示されているプロファイルは、事前に用意されたサンプルプロファイルです。読み取りには使用できません。参照作成する場合の雛形として使用してください。
- プロファイル一覧の各項目のタイトル行をクリックすると「雛形」以外が並べ替えられます。
- デフォルトのプロファイルを事前に設定できます。
  - 1 「ツール」メニュー → 「設定」をクリックし、「スキャン」タブの「バッチプロファイルの初期設定」でプロファイル名を指定します。
  - 2 バッチスキャンの設定で、指定したプロファイル名と同じ名前のプロファイルを作成します。
  - 3 作成したプロファイルの種別の右側に\*（アスタリスク）が表示されます。そのプロファイルの設定内容がデフォルトとなります。

[追加] ボタンでプロファイルを新規作成する場合、設定が反映されます。

#### 重要

TWAIN ドライバを使用する場合、[ドライバの設定] で有効な「設定ファイル」は「00: 現在の設定」だけです。

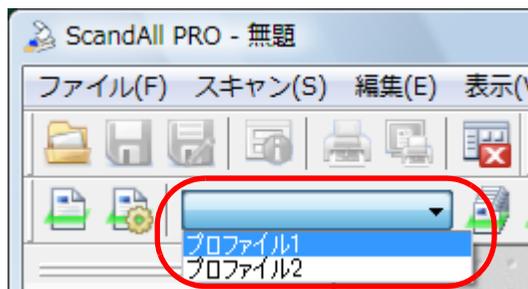
#### ヒント

各設定項目の詳細については、ScandAll PRO のヘルプを参照してください。

- ### 4 [OK] ボタンをクリックします。
- ⇒ 「バッチスキャンの設定」画面に戻ります。  
 「追加」、「参照作成」で作成したプロファイルは、プロファイル一覧に表示されます。

## 読み取りの実行

- 1 スキャナーに原稿をセットします。
- 2 ツールバーの「バッチプロファイルの選択」で、使用するプロファイル名を選択します。



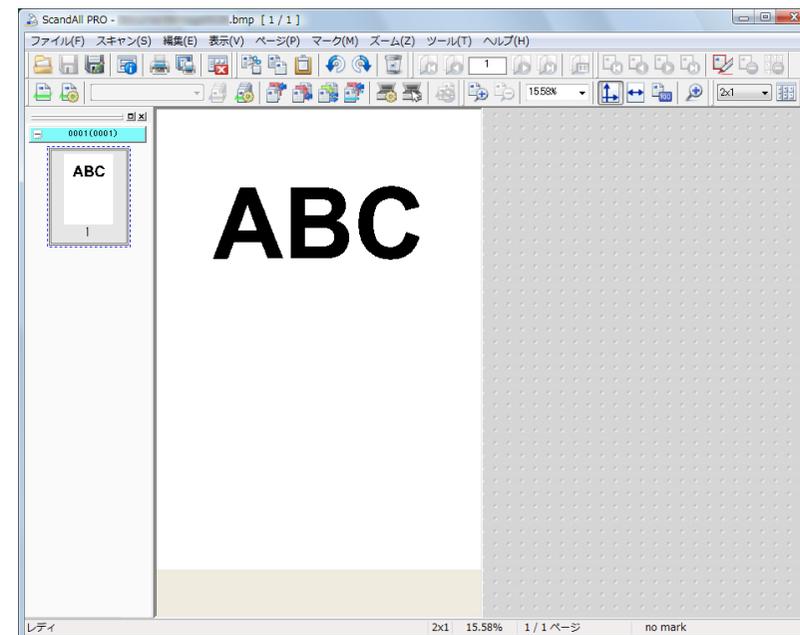
- 3 [バッチスキャンの実行] ボタンをクリックします。



### 重要

- 読み取り中は、USB 機器を抜き差ししないでください。
- 読み取り中は、ユーザー切り替えを行わないでください。読み取りがキャンセルされます。

⇒ スキャナーで読み取った原稿の画像が ScandAll PRO の画面に表示され、ファイルに保存されます。



### ヒント

- 「スキャン」メニューや「バッチスキャンの設定」画面から読み取ることもできます。詳細については、ScandAll PRO のヘルプを参照してください。
- バッチスキャンを行ったとき、バッチスキャンの作業状態が自動的に一時保存されます。一時保存は、プロファイルごとに行われ、常に直前で行われた作業状態で上書き保存されます。また、一時保存されたバッチスキャンの作業状態は、「スキャン」メニュー→「バッチスキャンの復元」で復元できます。「バッチスキャンの復元」については、「[中断したバッチスキャンを再開したいとき](#)」(P.56)を参照してください。
- バッチスキャン後に、追加スキャン、挿入スキャン、差し替えスキャン、ドキュメントへの追加スキャンや画像の編集などを行った場合は、「ファイル」メニュー→「保存」で、変更した内容を保存できます。

## 2.7 いろいろな読み取り方法

ScandAll PRO から、いろいろな方法で原稿を読み取りできます。

読み取り方の一覧を、次に示します。

### 読み取り方一覧

#### 読み取り方の変更

- 「ADF 両面（仮想）読み取り機能を使用して原稿を読み取りたいとき (fi-6750S / fi-7700S)」 (P.27)

#### 読み取り後の動作や処理の設定

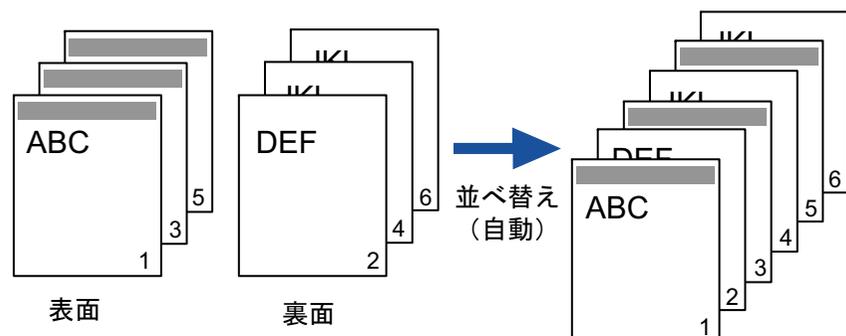
- 「読み取った画像を PDF 形式で保存したいとき」 (P.29)
- 「パッチコードを使って原稿を分割したいとき」 (P.31)
- 「バーコードを使って原稿を分割したいとき」 (P.34)
- 「ゾーン OCR の認識結果を使ってファイル名を設定したいとき」 (P.44)
- 「バーコードの認識結果を使ってファイル名を設定したいとき」 (P.48)
- 「バッチスキャンごとに格納フォルダーを作成したいとき」 (P.52)
- 「バッチスキャンを実行して SharePoint Server に格納したいとき」 (P.54)
- 「中断したバッチスキャンを再開したいとき」 (P.56)
- 「インデックス情報を出力しアプリケーションと連携したいとき」 (P.57)
- 「読み取った原稿の異常を検出したいとき (fi-6800)」 (P.61)

#### 読み取り時のスキャナー動作の変更

- 「スキャナーのボタンで読み取りを開始したいとき」 (P.41)

## ADF 両面（仮想）読み取り機能を使用して原稿を読み取りたいとき（fi-6750S / fi-7700S）

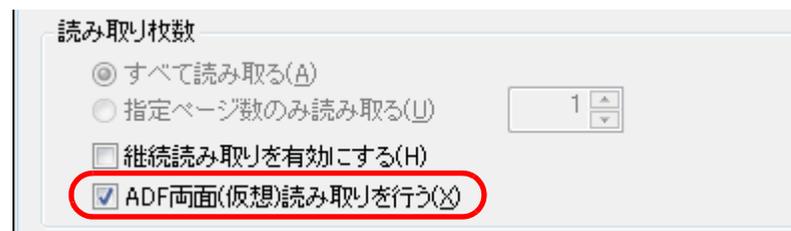
ADF 両面（仮想）読み取り機能は、原稿の表面を読み取り、続けて裏面を読み取ったあとに原稿を自動的に並べ替える機能です。



- 1 ADF給紙シュートに原稿の表面を下にしてセットします。原稿をADF給紙シュートにセットする方法については、お使いのスキナーのオペレーターガイドを参照してください。
- 2 ScandAll PROで両面を読み取るように設定します。次のどれかを設定してください。

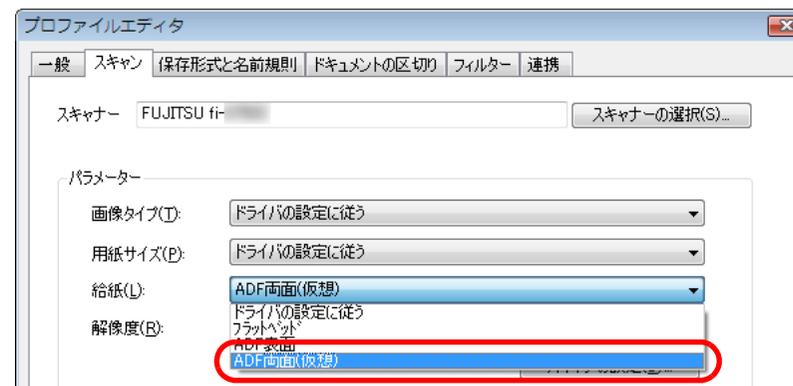
### スキャンで読み取る場合

「スキャンの設定」画面の「ADF両面（仮想）読み取りを行う」チェックボックスをチェックします。



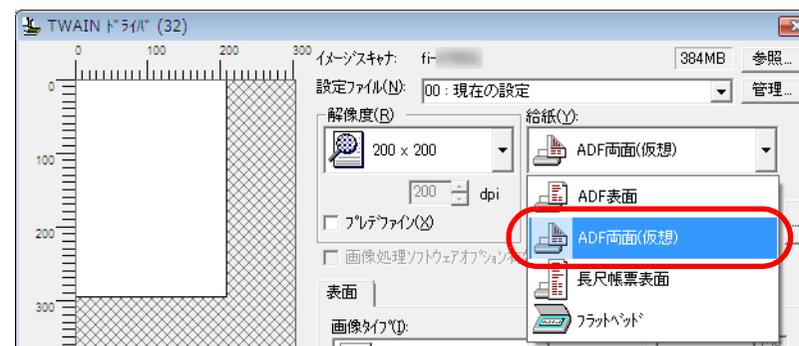
### バッチスキャンで読み取る場合

読み取りに使用するプロファイルを「プロファイルエディタ」画面で表示して、「スキャン」タブの「給紙」から「ADF両面（仮想）」を選択します。



### スキナードライバで読み取る場合

「TWAINドライバ(32)」画面で「給紙」から「ADF両面（仮想）」を選択します。



### ヒント

ISISドライバを使用して、仮想的に両面読み取りを行う場合は、「スキャンで読み取る場合」または「バッチスキャンで読み取る場合」のどちらかを設定して読み取ってください。

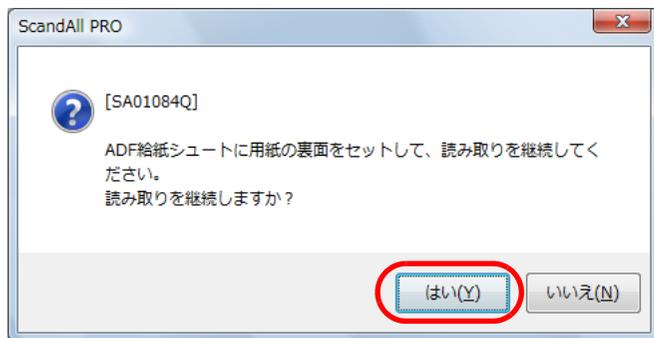
- 3 ScandAll PRO から、読み取りを実行します。  
⇒ 読み取りが完了すると、原稿の裏面をセットするように指示するメッセージが表示されます。
- 4 ADF給紙シュートに原稿の裏面を下にしてセットします。  
原稿を ADF 給紙シュートにセットする方法については、お使いのスキナーのオペレーターガイドを参照してください。

### 重要

原稿の裏面をセットする場合、次のことに注意してください。

- 最終ページから読み取りが行われるように原稿をセットしてください。
- 原稿の上下がさかさまにならないようにセットしてください。

- 5 メッセージの [はい] ボタンをクリックします。



- ⇒ 原稿の裏面が読み取られます。  
読み取り完了後、原稿の順序が自動的に並べ替えられます。

### 重要

- 次の場合、ADF 両面（仮想）読み取りを行うことができません。ScandAll PRO またはスキナードライバの設定を変更してください。
  - 「プロファイルエディタ」画面の「保存形式と名前規則」タブで、「カラーモノクロ同時出力」チェックボックスおよび「カラーモノクロ自動振り分け」チェックボックスがチェックされている場合
  - 「プロファイルエディタ」画面の「ドキュメント区切り」タブで、「区切りごとのページ数」、「パッチコードを使用したジョブセパレータ」、「バーコードを使用したジョブセパレータ」または「ハードウェアのジョブセパレータ」のチェックボックスがチェックされている場合
  - TWAIN ドライバの「TWAIN ドライバ (32)」画面で、「マルチイメージ有効」チェックボックスをチェックし、表示される「マルチイメージ設定」画面の「マルチイメージ出力」をクリックした場合
  - TWAIN ドライバの「オプション」画面で、「上下分割」チェックボックスおよび「空白ページスキップ」チェックボックスがチェックされている場合
  - ISIS ドライバの「空白ページスキップ」タブの「有効」チェックボックスがチェックされている場合
  - ISIS ドライバの「画像処理」タブの「画像タイプ」の「カメラ」で、「表面イメージ #1」および「表面イメージ #2」チェックボックスがチェックされている場合
- 表面と裏面の読み取り枚数が異なる場合、原稿の並べ替えは行われません。

## 読み取った画像を PDF 形式で保存したいとき

ScandAll PRO では、特別な操作を必要とせず、簡単に PDF ファイルを作成できます。また、圧縮率を変更して PDF ファイルのデータサイズを小さくできます。原稿をカラーおよびグレースケールで読み取る場合に推奨します。

次に手順を示します。

- 1 スキャナーに原稿をセットします。  
原稿をセットする方法については、お使いのスキャナーのオペレーターガイドを参照してください。
- 2 ScandAll PRO で、読み取った画像を保存するファイルのファイル形式を、次から選択します。
  - PDF File
  - SinglePage PDF File
  - PDF/A File
  - SinglePage PDF/A File

### 重要

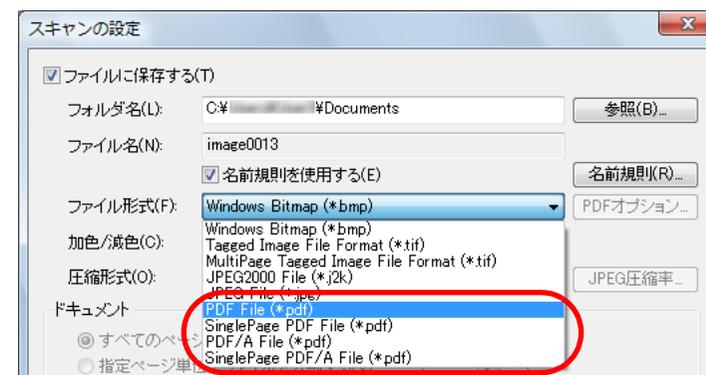
「PDF/A File」で保存する場合は、PDF ファイルを開く際のパスワードを設定できません。

### ヒント

「PDF File」、「SinglePage PDF File」は Adobe Acrobat 4.0 (PDF 1.3) 互換形式、「PDF/A File」、「SinglePage PDF/A File」は PDF/A-1b 形式 (PDF 1.4 仕様に基づいた電子文書の長期保存用形式) で保存されます。「SinglePage PDF File」、「SinglePage PDF/A File」は、1つの画像に対して1つのファイルが生成され、「PDF File」、「PDF/A File」は、複数の画像を1つのファイルに保存できます。

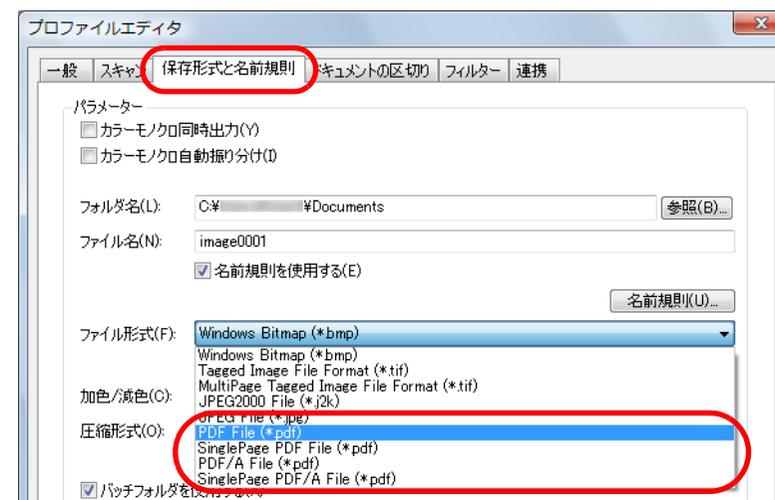
### スキャンで読み取る場合

「スキャンの設定」画面の「ファイル形式」で選択します。



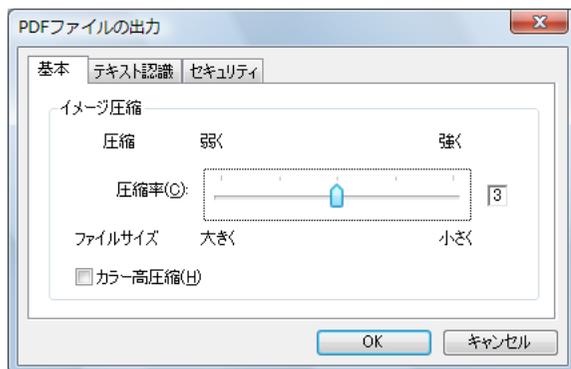
### バッチスキャンで読み取る場合

読み取りに使用するプロファイルを「プロファイルエディタ」画面で表示して、「保存形式と名前規則」タブの「ファイル形式」で選択します。



### 3 PDF オプションを指定する場合は、[PDF オプション] ボタンをクリックします。

⇒ 「PDF ファイルの出力」画面が表示されます。



この画面で、ファイル作成時の圧縮率を変更したり、検索可能な PDF ファイルに変換したり、PDF ファイルを開く際のパスワードを設定したりできます。

#### ヒント

「PDF ファイルの出力」画面の詳細については、ScandAll PRO のヘルプを参照してください。

### 4 ScandAll PRO から、読み取りを実行します。

⇒ スキャナーで読み取った原稿の画像が ScandAll PRO の画面に表示され、PDF ファイルとして保存されます。

#### ヒント

- 読み取り実行時に、読み取った原稿の画像を ScandAll PRO の画面に表示させないように設定できます。詳細については、ScandAll PRO のヘルプを参照してください。
- ScandAll PRO で読み取った画像は、ScandAll PRO を閉じたあとも、表示・編集できます。詳細については、ScandAll PRO のヘルプを参照してください。

## パッチコードを使って原稿を分割したいとき

ScandAll PRO では、パッチコードシートによるジョブセパレーション機能をサポートしています。本機能を使用すれば、複数枚の原稿のスキャンを中断しなくても、事前に指定した単位でそれぞれ別のフォルダーに格納できます。出力ファイルが PDF や TIFF (マルチページ) の場合は、複数枚の原稿を読み取る際に、指定した原稿単位でページが分割され、別々のファイルに保存できます。

次に手順を示します。

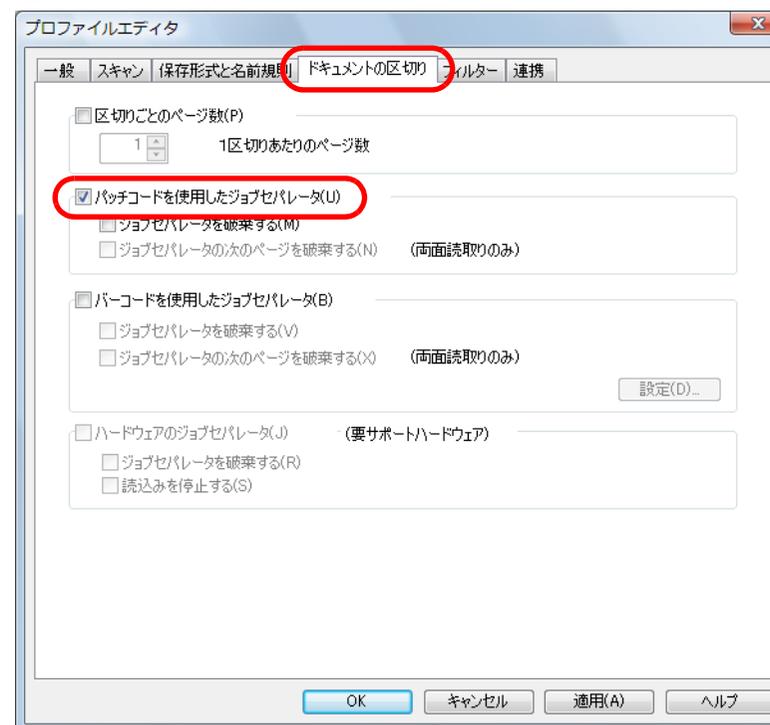
- 1 パッチコードシートを準備します。  
パッチコードシートは、A3 サイズ、A4 サイズ、ダブルレターサイズおよびレターサイズの 4 種類の PDF ファイルが用意されています。パッチコードシートによるジョブセパレーション機能を使用する場合、事前に「スタート」メニュー→「すべてのプログラム」→「Fujitsu ScandAll PRO」→「Patch Code」→「Job Separation (A3)」、「Job Separation (A4)」、「Job Separation (DoubleLetter)」または「Job Separation (Letter)」の PDF ファイルを必要枚数だけ印刷してください。

### 重要

- パッチコードシートを印刷する場合、次のことに注意してください。
  - 白色無地の紙を使用してください。
  - 等倍で印刷してください。  
縮小印刷された場合、正しく認識できません。
  - トナー節約などは行わないでください。  
印字が薄い場合、正しく認識できません。
  - 薄い紙を使用しないでください。  
裏写りしている場合、両面に印字されていると認識することがあります。
- 印刷したパッチコードシートを複写機などでコピーする場合は、元のパッチコードシートと同じサイズ、同じ濃さでコピーしてください。

- 同一のパッチコードシートを複数回使用すると、紙のよごれなどにより認識精度が低下する場合があります。正しく認識しない場合や、紙がよごれた場合は、新しいパッチコードシートを印刷して使用してください。

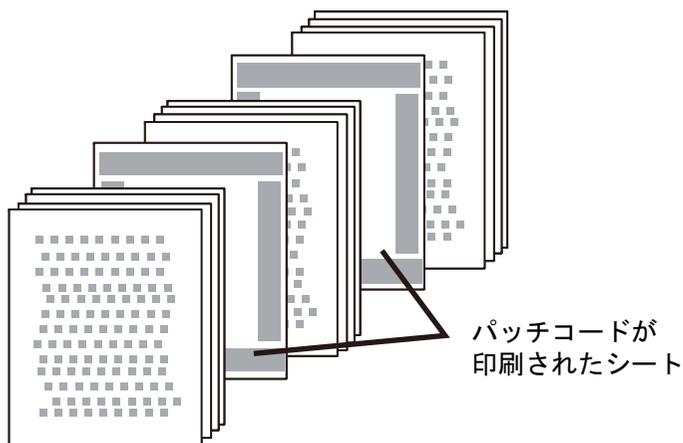
- 2 ScandAll PRO で新しいプロファイルを作成し、「プロファイルエディタ」画面を表示します。  
プロファイルを作成する方法については、「2.6 読み取り方法 (パッチスキャン)」(P.23) を参照してください。
- 3 「ドキュメントの区切り」タブをクリックし、「パッチコードを使用したジョブセパレータ」チェックボックスをチェックします。



## ヒント

- パッチコードシートの画像を保存しないようにする場合は、「ジョブセパレータを破棄する」チェックボックスをチェックしてください。
- 両面読み取りの場合、「ジョブセパレータの次のページを破棄する」チェックボックスをチェックすると、パッチコードシートの裏面の画像は保存されません。

- 4 ファイル/フォルダーを区切りたい位置にパッチコードシートを入れます。  
パッチコードが印刷されている面を ADF 給紙シュート側になるように、セットします。



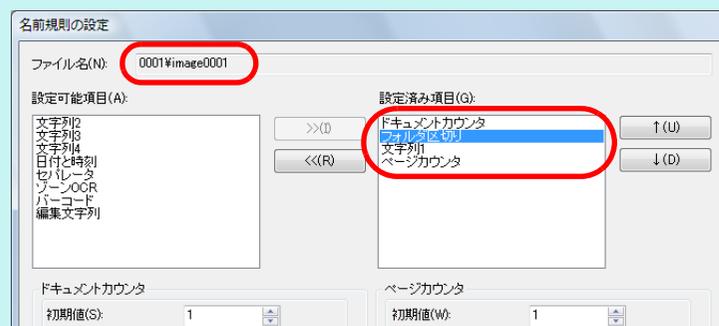
- 5 作成したプロファイルを指定してバッチスキャンを実行します。  
バッチスキャンを実行する方法については、「2.6 読み取り方法 (バッチスキャン)」(P.23) を参照してください。

## ヒント

読み取った原稿をパッチコードシートごとに別のフォルダーに格納する手順を示します。

ここでは、「ドキュメントカウンタ」を格納フォルダー名に設定して、読み取った画像のファイル名に「文字列 1」と「ページカウンタ」を設定する例を説明します。

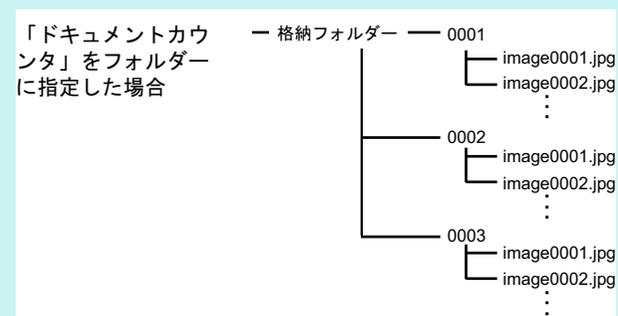
- 1 「プロファイルエディタ」画面の「保存形式と名前規則」タブの「名前規則を使用する」チェックボックスをチェックして、[名前規則] ボタンをクリックします。  
「名前規則の設定」画面が表示されます。
- 2 「ドキュメントカウンタ」、「フォルダ区切り」、「文字列 1」、「ページカウンタ」を「設定済み項目」に設定します。



「フォルダ区切り」より上に設定した項目が、格納フォルダー名に設定されます。

ここでは、「ドキュメントカウンタ」がフォルダー名となり、そのフォルダーに読み取った画像が格納されます。

格納例：



「フォルダ区切り」を設定しない場合は、フォルダーは作成されず、「ドキュメントカウンタ」、「文字列 1」、および「ページカウンタ」がファイル名となります。

格納例：

「ドキュメントカウンタ」をフォルダーに指定しない場合	— 格納フォルダー —	0001image0001.jpg
		0001image0002.jpg
		⋮
		0002image0001.jpg
		0002image0002.jpg
		⋮
		0003image0001.jpg
		0003image0002.jpg
		⋮
		⋮
		⋮
		⋮

TOP

目次

索引

はじめに

お使いになる前に

ScandAll PRO での読み取り方法

## バーコードを使って原稿を分割したいとき

ScandAll PRO では、バーコードが印刷されているシートによるジョブセパレーション機能をサポートしています。本機能を使用すれば、複数枚の原稿のスキャンを中断しなくても、事前に指定した単位でそれぞれ別のフォルダーに格納できます。出力ファイルが PDF や TIFF (マルチページ) の場合は、複数枚の原稿を読み取る際に、指定した原稿単位でページが分割され、別々のファイルに保存できます。また、ドキュメントカウンタやバーコードの認識文字列を名前の一部に使用したファイルやフォルダーを作成できます。

ScandAll PRO では次の種類のバーコードを検知できます。

### 1次元バーコード

コード	キャラクタセット	桁数
UPC/EAN/ JAN	数字	UPC:12 (UPC-A だけ、チェックデジットを含む) EAN、JAN:8 または 13 (チェックデジットを含む)
CODE39 (*1)	ASCII データ	1 ~ 32 (スタート・ストップコードを含まない)
CODE128/ EAN128	ASCII データ	1 ~ 32 (チェックキャラクタを含まない)
Codabar (NW7)	4 種類のスタート・ストップキャラクタ、数字、6 種類の記号	1 ~ 32 (スタート・ストップコードを含まない)
ITF	数字	2 ~ 32 (必ず偶数桁)

\*1 : Full ASCII モードで動作します。

#### 1次元バーコードの例

CODE39



1次元バーコードの検知条件については、「[1次元バーコードの検知条件](#)」(P.35) を参照してください。

### 2次元コード

コード	キャラクタセット	桁数
PDF417	ASCII データ、バイナリデータ (マルチバイト文字) 上記の混在	英数字混在 : 最大 1850 字 数字 : 最大 2710 桁 バイナリデータ : 最大 1108 バイト
QR コード	数字、英字、記号、マルチバイト文字、制御コード 上記の混在	英数字混在 : 最大 395 字 数字 : 最大 652 桁 全角文字 : 最大 167 文字

#### 2次元コードの例

PDF417



QRコード



- PDF417 の検知条件については、「[PDF417 の検知条件](#)」(P.35) を参照してください。
- QR コードの検知条件については、「[QR コードの検知条件](#)」(P.36) を参照してください。  
ただし、分割 QR コードの読み取りはできません。

次にバーコードの検知条件を示します。

### 1 次元バーコードの検知条件

項目	条件
バーコードの縦幅	10 ~ 30mm
バーコードの横幅 (長さ)	300mm 以下
バーコードの余白	バーコードの周囲 5mm 以上 (ITF の左端および右端は、5mm 以上か、細 エレメント幅の 6 倍以上のどちらか大きい方)
バーコードの色	黒色
バーコードの下地色	白色
解像度	200 ~ 600dpi
バーコードの角度	水平、垂直
細エレメント幅 / モ ジュール幅	<ul style="list-style-type: none"> <li>● UPC/EAN/JAN 300dpi 以上の場合 : 0.264mm 以上 300dpi 未満の場合 : 0.30mm 以上</li> <li>● CODE39/CODE128/EAN128/ Codabar(NW7) 300dpi 以上の場合 : 0.20mm 以上 300dpi 未満の場合 : 0.30mm 以上</li> <li>● ITF 300dpi 以上の場合 : 0.254mm 以上 300dpi 未満の場合 : 0.30mm 以上</li> </ul>
太エレメント幅	14.0mm 以下 (UPC/EAN/JAN/CODE128/EAN128 では、最 も太い (4 モジュール相当の) エレメント幅 です)

項目	条件
キャラクタ間ギャッ プ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● UPC/EAN/JAN/CODE128/EAN128/ITF キャラクタ間ギャップは存在しません。</li> <li>● CODE39/Codabar(NW7) 細エレメント幅以上で、1.52mm または細 エレメント幅の 3 倍のどちらか大きい方以 下</li> </ul>

### PDF417 の検知条件

項目	条件
モジュールの横幅	0.3 ~ 2.0mm
モジュールの縦幅 (高さ)	モジュールの幅の 3 倍以上推奨 (モジュールの幅の 2 倍未満となる場合は認識 されません)
バーコードの横幅 (全体幅)	25.5 ~ 170.0mm
バーコードの縦幅 (高さ)	10.0 ~ 30.0mm
バーコードの余白	バーコードの周囲 5mm 以上
バーコードの色	黒色
バーコードの下地色	白色
解像度	200 ~ 600dpi
バーコードの角度	水平、垂直
エラー訂正レベル	0/2/3/4/5/6/7

## QR コードの検知条件

項目	条件
モデル	モデル 2 ただし、ECI モード、FNC1 モードは未対応
バージョン	3 ~ 10
情報の種類	数字、英字、記号、マルチバイト文字、制御コード 上記の混在
セルサイズ	0.40mm 以上
バーコードの余白	上下左右 4 セル以上
バーコードの色	黒色
バーコードの下地色	白色
解像度	300 ~ 600dpi
バーコードの角度	水平、垂直
エラー訂正レベル	L/M/Q/H

- 同じシートを複数回使用すると、紙のよごれなどによって認識精度が低下する場合があります。正しく認識されない場合や紙がよごれた場合は、新しいシートに交換してください。
- バーコードの認識文字列に制御文字およびフォルダー名やファイル名として使用不可能な文字（¥/:\*?"<>|）が含まれていた場合は、これらの文字が「」（スペース）または「\_」（アンダーバー）に置き換えられた名前でファイルやフォルダーが作成されます。制御文字によっては、無視されるものもあります。
- 読み取り原稿が傾いている場合やドライバの設定、バーコードの印刷状態によっては正しく認識できない場合があるため、事前に正しく認識されることを確認したあと、運用してください。

次に手順を示します。

ここでは、バーコードを検出する領域を限定して読み取る場合を例に説明します。

- 1 バーコードのサンプル画像の原稿を読み取ります。  
読み取り方法については、「[2.5 読み取り方法（スキャン）](#)」（P.20）または「[2.6 読み取り方法（バッチスキャン）](#)」（P.23）を参照してください。

## 重要

- 検知条件の組み合わせ以外の原稿は、正しく認識されない場合があります。
- 認識領域に、複数のバーコードが存在した場合、最初に認識したバーコードが有効となります。
- 2次元コードは、Premium 機能が有効な場合だけ使用できます。Premium 機能を有効にする条件については、「[2.10 Premium 機能が有効になる条件](#)」（P.68）を参照してください。
- 読み取った原稿に予期しないバーコードがあった場合、誤ってドキュメントが分割されたり、読み取り時の指定によっては、読み取った画像が削除されたりする場合がありますため、事前に原稿をよく確認してください。検知するバーコードの種類や領域を限定することを推奨します。

**ヒント**

サンプルで使用できるのは、ScandAll PRO で作成した画像です。詳細は、次のとおりです。

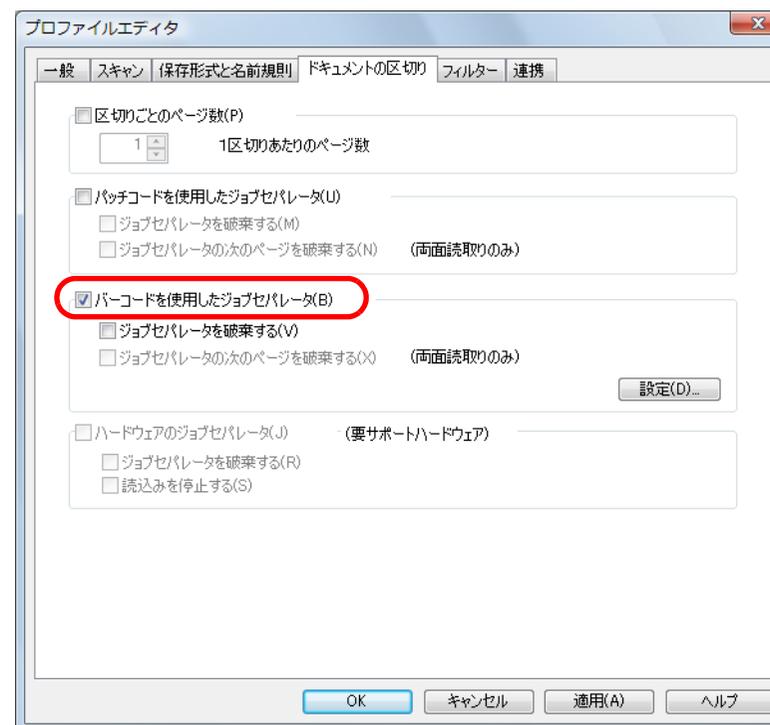
ファイル形式	画像タイプ	原稿サイズ	解像度
BMP	白黒 8ビットグレー 24ビットカラー	縦および横のそれぞれの長さ 50mm以上 453mm以下	200dpi以上
JPEG (*1)	8ビットグレー 24ビットカラー		
TIFF (*2)	白黒 8ビットグレー 24ビットカラー		

\*1 : Progressive JPEG を除きます。

\*2 : Multipage TIFF の場合は、1 ページ目の画像がサンプル画像になります。

- 2** ScandAll PRO で新しいプロファイルを作成し、「プロファイルエディタ」画面を表示します。プロファイルを作成する方法については、「[2.6 読み取り方法 \(バッチスキャン\)](#)」(P.23) を参照してください。

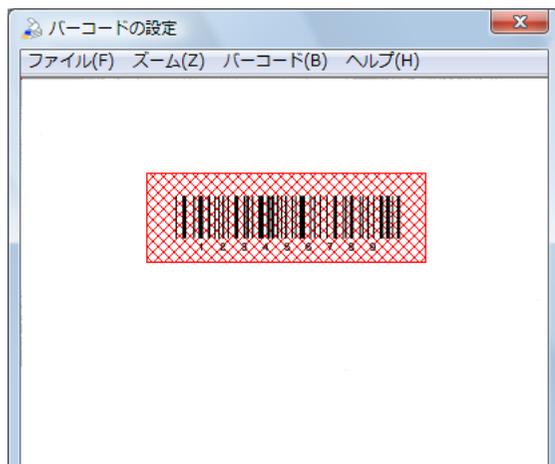
- 3** 「ドキュメントの区切り」タブをクリックし、「バーコードを使用したジョブセパレータ」チェックボックスをチェックします。

**ヒント**

- バーコードが印刷されたシートの画像を保存しないようにする場合は、「ジョブセパレータを破棄する」チェックボックスをチェックしてください。
- 両面読み取りの場合、「ジョブセパレータの次のページを破棄する」チェックボックスをチェックすると、バーコードが印刷されたシートの裏面の画像は保存されません。

- 4** [設定] ボタンをクリックします。  
⇒ 「バーコードの設定」画面が表示されます。

- 5 バーコードを検出する領域をドラッグして選択します。  
 ⇨ 選択した領域は赤色の網がけで表示されます。



### ヒント

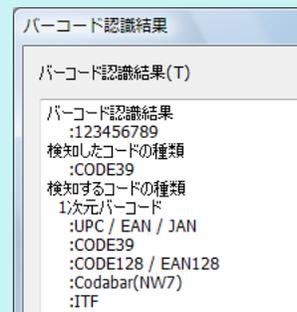
- サンプル画像の表示について  
 「バーコードの設定」画面には、一度表示して保存された画像が表示されます。該当する画像がない場合は、メイン画面で現在表示されている画像が表示されます。  
 ただし、次に該当する場合は、画像が表示されません。
  - メイン画面に画像が表示されていない場合
  - メイン画面の画像がサンプル画像としての条件を満たしていない場合
 画像が表示されない場合、または表示するサンプル画像を変更する場合は、「ファイル」メニュー→「開く」からサンプル画像を選択してください。

- バーコードの詳細設定について  
 「バーコード」メニュー→「詳細設定」で、バーコードの詳細設定が指定できます（2次元コードは、Premium 機能が有効な場合に選択できます）。設定項目の詳細は、ScandAll PRO のヘルプを参照してください。

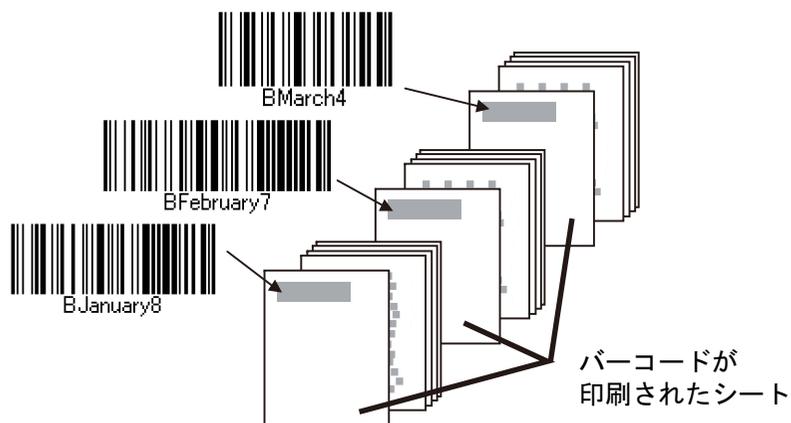


バーコードを使用し、読み取り速度が低下した場合は、検知するバーコードの種類を少なくしたり、バーコードを検知する領域を小さくしたりすることによって、読み取り速度が改善する場合があります。

- バーコード認識結果について  
 「バーコード」メニュー→「バーコード認識の実行」でサンプル画像のバーコード認識結果を確認できます。  
 ここでは、Premium 機能が有効な場合の「バーコード認識結果」画面を例にしています。



- 6 領域選択が終了したら「ファイル」メニュー→「設定の終了」をクリックし、設定内容を保存して終了します。
- 7 ファイル/フォルダーを区切りたい位置にバーコードが印刷されているシートを入れます。  
バーコードが印刷されている面をADF給紙シュート側になるように、セットします。



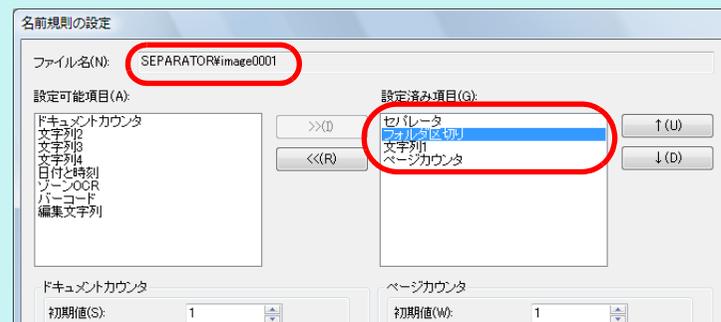
- 8 作成したプロファイルを指定してバッチスキャンを実行します。  
バッチスキャンを実行する方法については、「2.6 読み取り方法 (バッチスキャン)」(P.23) を参照してください。

### ヒント

読み取った原稿をバーコードが印刷されたシートごとに別のフォルダーに格納し、格納するフォルダー名をバーコード認識文字列とする手順を示します。

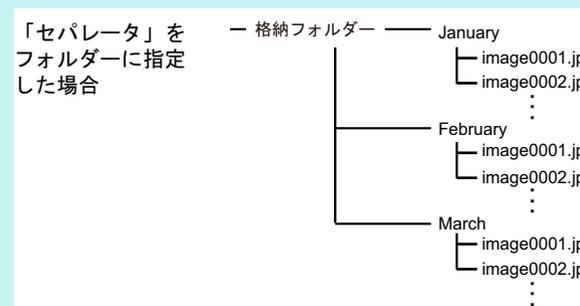
ここでは、「セパレータ」を格納フォルダー名に設定して、読み取った画像のファイル名に「文字列 1」と「ページカウンタ」を設定する例を説明します。

- 1 「プロファイルエディタ」画面の「保存形式と名前規則」タブの「名前規則を使用する」チェックボックスをチェックして、「名前規則」ボタンをクリックします。「名前規則の設定」画面が表示されます。
- 2 「セパレータ」、「フォルダ区切り」、「文字列 1」、「ページカウンタ」を「設定済み項目」に設定します。



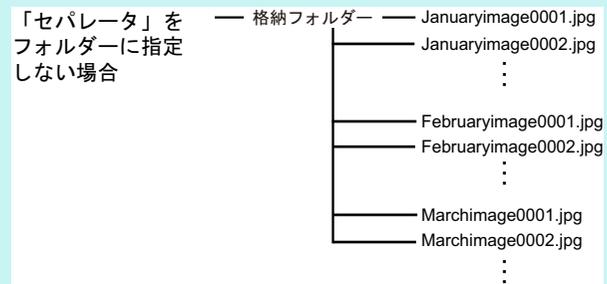
「フォルダ区切り」より上に位置づけられた「セパレータ」がフォルダー名となり、そのフォルダーに読み取った画像が格納されます。

格納例：



「フォルダ区切り」を設定しない場合は、フォルダーは作成されず、「セパレータ」、「文字列 1」、「ページカウンタ」がファイル名となります。

格納例：



TOP

目次

索引

はじめに

お使いになる  
前に

ScandAll PRO で  
の読み取り方法

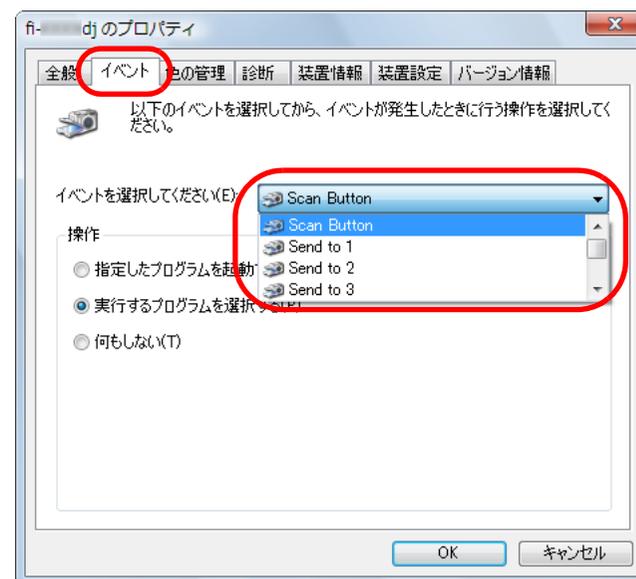
## スキャナーのボタンで読み取りを開始したいとき

スキャナーの [Scan] ボタンおよび [Send to] ボタンを使用して、原稿を読み取りできます。この場合は、起動するアプリケーションを各ボタンに設定する必要があります。

### コンピュータ側の設定

- 1 スキャナーとコンピュータが接続されていることを確認し、スキャナーの電源を投入します。  
スキャナーとコンピュータの接続については、お使いのスキャナーのオペレーターガイドを参照してください。
- 2 「スタート」メニュー → 「コントロールパネル」をクリックします。  
⇒ 「コントロールパネル」画面が表示されます。
- 3 「ハードウェアとサウンド」のアイコンをクリックします。  
⇒ 「ハードウェアとサウンド」画面が表示されます。
- 4 「スキャナとカメラ」のアイコンをクリックします。  
⇒ 「スキャナとカメラ」画面が表示されます。
- 5 スキャナーのプロパティを表示します。  
スキャナーのアイコンをダブルクリックします。

- 6 「イベント」タブをクリックし、イベントを選択します。「イベントを選択してください」のメニューから、アプリケーションを起動するイベントを選択します。



本機能では、次のイベントを選択できます。

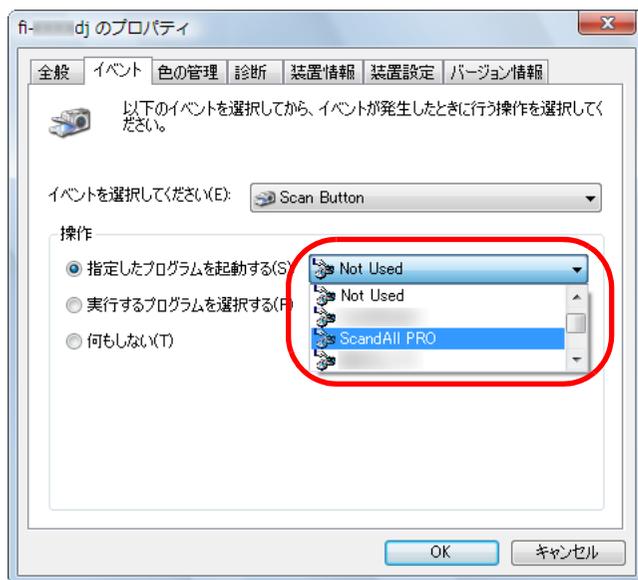
- Scan Button ([Scan] ボタンを押したとき)
- Send to 1-n (操作パネルに 1 ~ n の数字を表示させた状態で [Send to] ボタンを押したとき)

### 重要

操作パネルに表示される数字は、スキャナーによって異なります。

例：Send to 1-9

- 7 イベントで起動するアプリケーションと実行する処理を選択します。  
「操作」の下の「指定したプログラムを起動する」をクリックして、右のメニューからアプリケーションを選択します。



- 8 [OK] ボタンをクリックします。

### ヒント

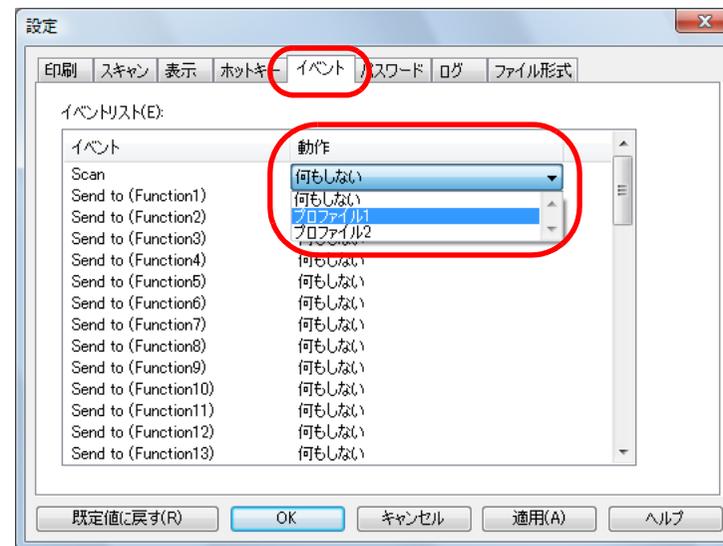
- ScandAll PRO 以外のアプリケーションを使用する場合、コンピュータ側の設定はこれで終了です。続けて、「[スキャナー側の設定](#)」(P.43)を行ってください。
- お使いのオペレーティングシステムによって表示される画面および操作が異なります。
- 複数のボタンを設定する場合は、手順 6 ~ 7 を繰り返し、最後に手順 8 を行います。

- 9 ScandAll PRO を起動します。

- 10 「ツール」メニュー → 「設定」をクリックします。  
⇒ 「設定」画面が表示されます。

- 11 「イベント」タブをクリックします。

- 12 手順 6 で選択したイベントの動作欄をクリックして、表示されるリストから、読み取りに使用するプロファイルを選択します。



### ヒント

事前にプロファイルを作成しておく必要があります。  
プロファイルの作成方法については、「[2.6 読み取り方法 \(バッチスキャン\)](#)」(P.23)を参照してください。

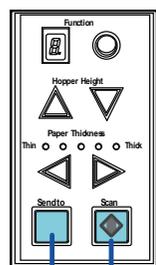
- 13 [OK] ボタンをクリックします。

- 14 ScandAll PRO を終了します。

## スキャナー側の設定

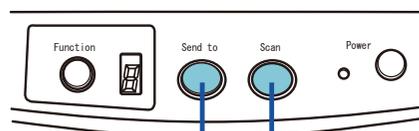
## 1 スキャナーのボタンを設定します。

ADFタイプの例



[Scan] ボタン  
[Send to] ボタン

フラットベッドタイプの例



[Scan] ボタン  
[Send to] ボタン

- [Scan] ボタンを使う場合  
特に設定することはありません。
- [Send to] ボタンを使う場合
  - 1 [Function] ボタンを押して、操作パネルの数字を切り替えます。
  - 2 コンピュータ側で設定したイベント（Send to 1～n）と数字を合わせます。  
例えば「Send to 2」のイベントを実行する場合は、操作パネルに「2」を表示させます。

## 2 設定したスキャナーのボタンを押します。

⇒ 指定したプロファイルの条件に従ってバッチスキャンによる読み取りが実行されます。

## 重要

お使いのスキャナーによっては、手順 12 で Send to 1～n に設定したプロファイル名が操作パネルに表示されます。ただし、プロファイル名が次の場合は正しく表示されません。

- スキャナーがサポートしていない言語で設定している場合（サポートしていない言語は「■」で表示されます）
- 表示域を超える場合（半角で 16 文字 × 3 行まで表示可能）

## ヒント

操作パネルの仕様はスキャナーによって異なります。詳細は、お使いのスキャナーのオペレーターガイドを参照してください。

TOP

目次

索引

はじめに

お使いになる前に

ScandAll PRO での読み取り方法

## ゾーン OCR の認識結果を使ってファイル名を設定したいとき

ScandAll PRO では、ゾーン OCR 機能をサポートしていません。本機能を使用すれば、読み込んだ原稿の特定の領域で OCR が実行され、認識結果をインデックス情報ファイルに出力できます。また、ゾーン OCR で認識した文字列を、画像のファイル名またはフォルダー名に使用できます。ここでは、ゾーン OCR で認識した文字列をファイル名に設定する方法を説明します。

### ヒント

- 画像の解像度は、次を推奨します。カラー/グレイは 600dpi より大きい解像度は認識できません。
  - 白黒：400/600dpi
  - カラー/グレイ：200/300dpi
- ドライバによる自動傾き補正と原稿向き補正フィルターを使用することにより、認識率の向上が期待できます。
- 認識文字が英数字や記号だけの場合は、誤認識することがあります。認識言語を英語に変更して実行すると文字を認識しやすくなります。

次に手順を示します。

ここでは、「文字列 1」、「ページカウンタ」、およびゾーン OCR 結果をファイル名に設定する例を説明します。

- 1 ゾーン OCR のサンプル画像の原稿を読み取ります。読み取り方法は「[2.5 読み取り方法 \(スキャン\)](#)」(P.20) または「[2.6 読み取り方法 \(バッチスキャン\)](#)」(P.23) を参照してください。

### ヒント

サンプルで使用できるのは、ScandAll PRO で作成した画像です。詳細は、次のとおりです。

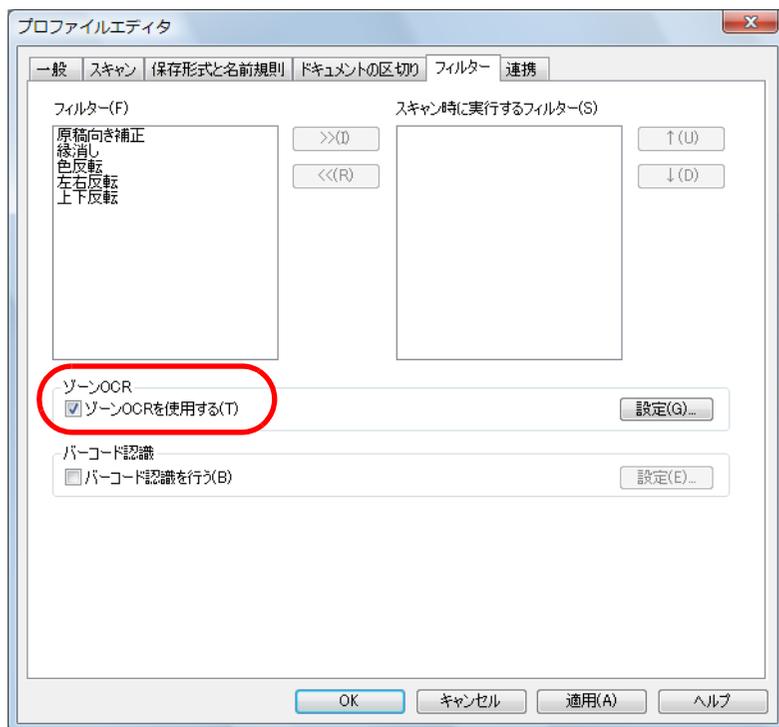
ファイル形式	画像タイプ	原稿サイズ	解像度
BMP	白黒 8 ビットグレイ 24 ビットカラー	縦および横のそれぞれの長さ 50mm 以上 453mm 以下	200dpi 以上
JPEG (*1)	8 ビットグレイ 24 ビットカラー		
TIFF (*2)	白黒 8 ビットグレイ 24 ビットカラー		

\*1：Progressive JPEG を除きます。

\*2：Multipage TIFF の場合は、1 ページ目の画像がサンプル画像になります。

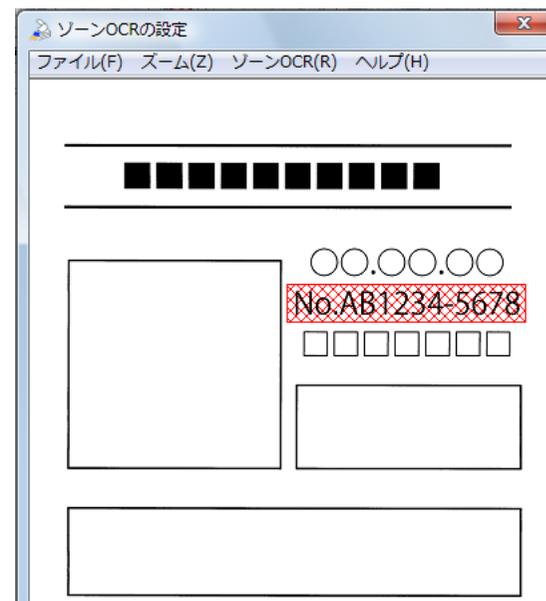
- 2 ScandAll PRO で新しいプロファイルを作成し、「プロファイルエディタ」画面を表示します。プロファイルを作成する方法については「[2.6 読み取り方法 \(バッチスキャン\)](#)」(P.23) を参照してください。

- 3 「フィルター」タブをクリックし、「ゾーン OCR を使用する」チェックボックスをチェックします。



- 4 [設定] ボタンをクリックします。  
⇒ 「ゾーン OCR の設定」画面が表示されます。

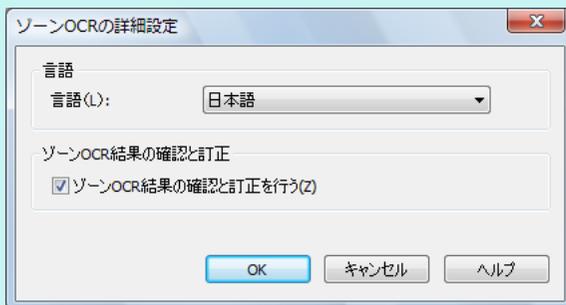
- 5 ゾーン OCR を行う領域をドラッグし選択します。  
⇒ 選択した領域は赤色の網がけで表示されます。



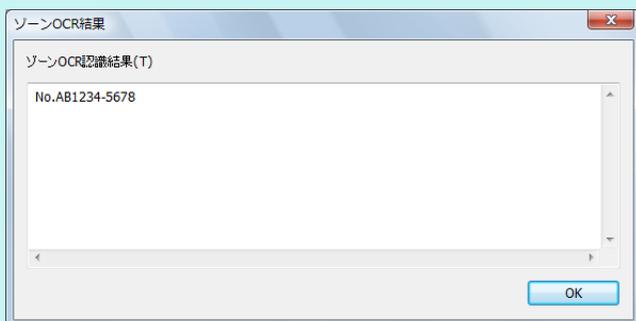
### ヒント

- サンプル画像の表示について  
「ゾーン OCR の設定」画面には、一度表示して保存された画像が表示されます。該当する画像がない場合は、メイン画面で現在表示されている画像が表示されます。ただし、次に該当する場合は、画像が表示されません。
  - メイン画面に画像が表示されていない場合
  - メイン画面の画像がサンプル画像としての条件を満たしていない場合
 画像が表示されない場合、または表示するサンプル画像を変更する場合は、「ファイル」メニュー→「開く」からサンプル画像を選択してください。

- ゾーン OCR の詳細設定について  
「ゾーン OCR」メニュー→「詳細設定」で、ゾーン OCR の詳細設定が指定できます。設定項目の詳細は、ScandAll PRO のヘルプを参照してください。

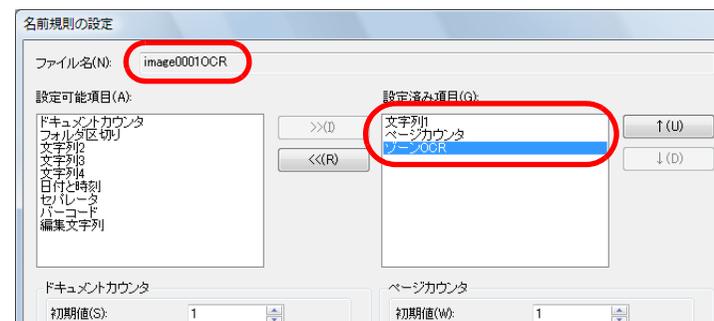


- ゾーン OCR 結果について  
「ゾーン OCR」メニュー→「ゾーン OCR の実行」でサンプル画像のゾーン OCR 結果を確認できます。



- 6 領域選択が終了したら「ファイル」メニュー→「設定の終了」をクリックし、設定内容を保存し終了します。
- 7 「プロファイルエディタ」画面の「保存形式と名前規則」タブの「名前規則」ボタンをクリックします。  
⇒「名前規則の設定」画面が表示されます。

- 8 「文字列 1」、「ページカウンタ」、「ゾーン OCR」を「設定済み項目」に設定します。



⇒「文字列 1」、「ページカウンタ」、およびゾーン OCR 結果がファイル名に使用されます。

### 重要

ゾーン OCR で認識した文字列をファイル名に使用する場合は、次のことに注意してください。

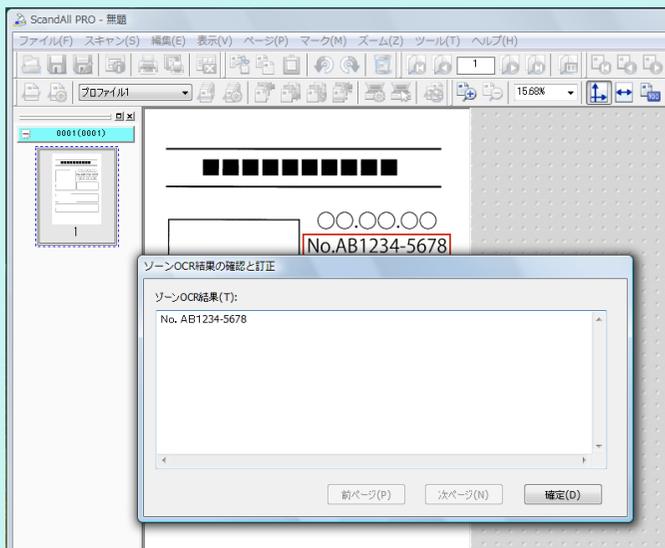
- 認識文字列長は 32 文字までです。
- 使用禁止文字（¥/:?\*"<>|）は、「」（スペース）または「\_」（アンダーバー）に置き換えられます。
- 複数行ある場合は、改行文字は削除されます。
- シングルページ形式のファイルを出力する場合は、「ページカウンタ」をファイル名に含めてください。ページカウンタを含めない場合、ファイル名が重複することがあります。
- マルチページ形式のファイルを作成した場合、ファイル名には、先頭ページのゾーン OCR で認識した文字列が使用されません。

- 9 スキャナーに原稿をセットします。
- 10 作成したプロファイルを指定してバッチスキャンを実行します。  
バッチスキャンを実行する方法については、「[2.6 読み取り方法（バッチスキャン）](#)」（P.23）を参照してください。

## ヒント

### ゾーン OCR 結果の確認と訂正について

「ゾーン OCR の詳細設定」画面で「ゾーン OCR 結果の確認と訂正を行う」チェックボックスにチェックした場合、バッチスキャン実行時に「ゾーン OCR 結果の確認と訂正」画面が表示されます。ここで、ゾーン OCR 結果の確認と訂正ができます。



## バーコードの認識結果を使ってファイル名を設定したいとき

ScandAll PRO では、バーコード認識機能をサポートしています。本機能を使用すれば、読み込んだ原稿の特定の領域でバーコード認識が実行され、認識結果をインデックス情報ファイルに出力できます。また、バーコードで認識した文字列を、画像のファイル名やフォルダ名に使用できます。バーコードが印刷されているシートを区切りとして、画像を別々のファイルに保存することもできます。この保存の際にも、シートに印刷されているバーコードの認識結果をファイル名として設定できます。詳細は、「[バーコードを使って原稿を分割したいとき](#)」(P.34)を参照してください。

### ヒント

画像の解像度は、200～600dpiを推奨します。

次に手順を示します。

ここでは、バーコードの検知領域を限定し、「文字列 1」、「ページカウンタ」、およびバーコード認識結果をファイル名に設定して読み取る例を説明します。

- 1 バーコードのサンプル画像の原稿を読み取ります。読み取り方法は「[2.5 読み取り方法 \(スキャン\)](#)」(P.20)または「[2.6 読み取り方法 \(バッチスキャン\)](#)」(P.23)を参照してください。

### ヒント

サンプルで使用できるのは、ScandAll PRO で作成した画像です。詳細は、次のとおりです。

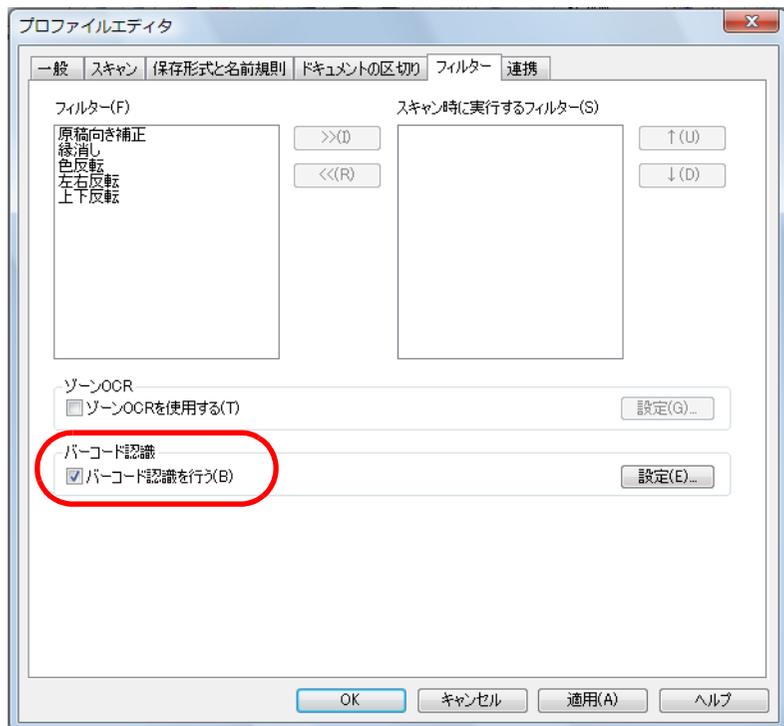
ファイル形式	画像タイプ	原稿サイズ	解像度
BMP	白黒 8ビットグレー 24ビットカラー	縦および横のそれぞれの長さ 50mm以上 453mm以下	200dpi以上
JPEG (*1)	8ビットグレー 24ビットカラー		
TIFF (*2)	白黒 8ビットグレー 24ビットカラー		

\*1 : Progressive JPEG を除きます。

\*2 : Multipage TIFF の場合は、1 ページ目の画像がサンプル画像になります。

- 2 ScandAll PRO で新しいプロファイルを作成し、「プロファイルエディタ」画面を表示します。プロファイルを作成する方法については「[2.6 読み取り方法 \(バッチスキャン\)](#)」(P.23)を参照してください。

- 3 「フィルター」タブをクリックし、「バーコード認識を行う」チェックボックスをチェックします。



- 4 [設定] ボタンをクリックします。  
⇒ 「バーコードの設定」画面が表示されます。

- 5 バーコード認識を行う領域をドラッグし選択します。  
⇒ 選択した領域は赤色の網がけで表示されます。



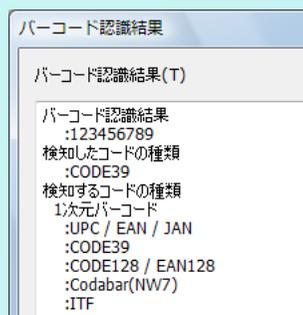
#### ヒント

- サンプル画像の表示について  
「バーコードの設定」画面には、一度表示して保存された画像が表示されます。該当する画像がない場合は、メイン画面で現在表示されている画像が表示されます。ただし、次に該当する場合は、画像が表示されません。
  - メイン画面に画像が表示されていない場合
  - メイン画面の画像がサンプル画像としての条件を満たしていない場合
 画像が表示されない場合、または表示するサンプル画像を変更する場合は、「ファイル」メニュー → 「開く」からサンプル画像を選択してください。

- バーコードの詳細設定について  
「バーコード」メニュー→「詳細設定」で、バーコードの詳細設定が指定できます（2次元コードは、Premium 機能が有効な場合に選択できます）。設定項目の詳細は、ScandAll PRO のヘルプを参照してください。



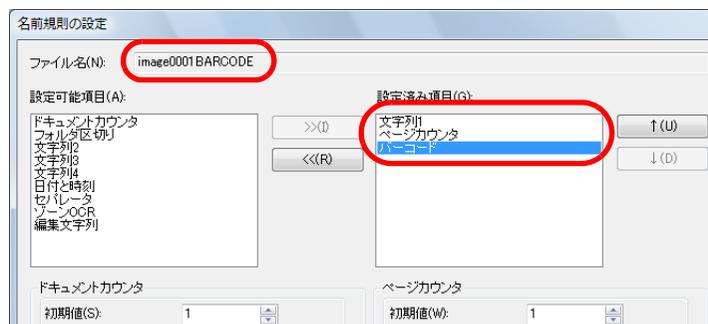
- バーコード認識結果について  
「バーコード」メニュー→「バーコード認識の実行」でサンプル画像のバーコード認識結果を確認できます。ここでは、Premium 機能が有効な場合の「バーコード認識結果」画面を例にしています。



- 6 領域選択が終了したら「ファイル」メニュー→「設定の終了」をクリックし、設定内容を保存し終了します。

- 7 「プロファイルエディタ」画面の「保存形式と名前規則」タブの「名前規則」ボタンをクリックします。  
⇒「名前規則の設定」画面が表示されます。

- 8 「文字列 1」、「ページカウンタ」、「バーコード」を「設定済み項目」に設定します。



- ⇒「文字列 1」、「ページカウンタ」、およびバーコード認識結果がファイル名に使用されます。

### 重要

バーコードで認識した文字列をファイル名に使用する場合は、次のことに注意してください。

- 認識文字列長は 32 文字までです。
- バーコードの認識文字列に制御文字およびフォルダ名やファイル名として使用不可能な文字（¥/ : \* ? " < > |）が含まれていた場合は、これらの文字が「」（スペース）または「\_」（アンダーバー）に置き換えられた名前でファイルやフォルダが作成されます。  
制御文字によっては、無視されるものもあります。
- シングルページ形式のファイルを出力する場合は、「ページカウンタ」をファイル名に含めてください。ページカウンタを含めない場合、ファイル名が重複することがあります。
- マルチページ形式のファイルを作成した場合、ファイル名には、先頭ページのバーコードで認識した文字列が使用されません。

- 9 スキャナーに原稿をセットします。

- 10** 作成したプロファイルを指定してバッチスキャンを実行します。  
バッチスキャンを実行する方法については、「[2.6 読み取り方法 \(バッチスキャン\)](#)」(P.23) を参照してください。

TOP

目次

索引

はじめに

お使いになる  
前に

ScandAll PRO で  
の読み取り方法

## バッチスキャンごとに格納フォルダーを作成したいとき

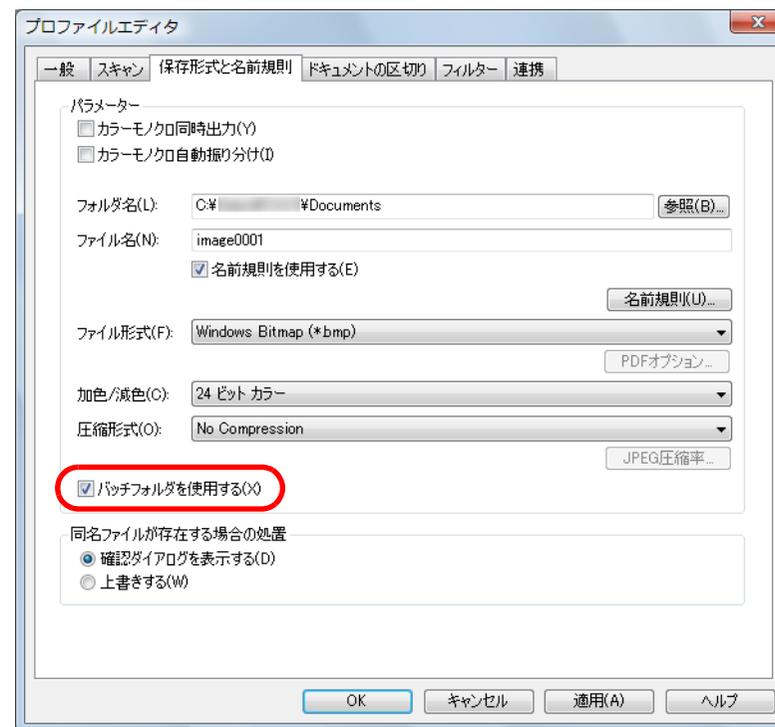
同じプロファイルを連続して実行した場合、ファイル名が同一となり、以前のバッチスキャンの出力ファイルを上書きしてしまうことがあります。

ScandAll PRO では、バッチスキャンを実行するごとに、画像を格納するフォルダーを作成し、誤ってファイルを上書きしてしまわないよう設定できます。

次に手順を示します。

- 1 ScandAll PRO で新しいプロファイルを作成し、「プロファイルエディタ」画面を表示します。  
プロファイルを作成する方法については「[2.6 読み取り方法（バッチスキャン）](#)」（P.23）を参照してください。

- 2 「保存形式と名前規則」タブをクリックし、「バッチフォルダを使用する」チェックボックスをチェックします。



- 3 スキャナーに原稿をセットします。
- 4 作成したプロファイルを指定してバッチスキャンを実行します。  
⇒ バッチスキャンを実行すると「バッチフォルダ名」画面が表示されます。

バッチスキャンを実行する方法については、「[2.6 読み取り方法（バッチスキャン）](#)」（P.23）を参照してください。

5 バッチフォルダ名を入力し、[OK] ボタンをクリックします。



⇒ スキャン処理が実行され、入力したバッチフォルダ名で作成されたフォルダーに、ファイルが格納されます。

ヒント

バッチフォルダ名の末尾に8桁以内の数字が付加されている場合は、前回指定された数字に1を加え表示します。ただし、1を加えることで桁数が増える場合は、1に戻します。

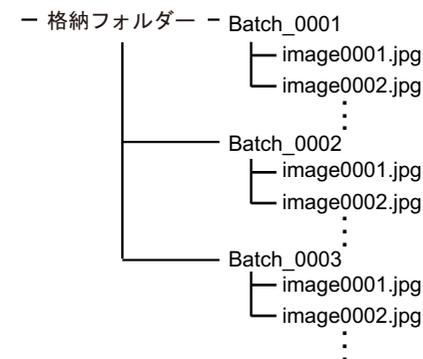
また、バッチフォルダ名の末尾に8桁を超える数字が付加されている場合は、数値は変動しません。

例：

指定したバッチフォルダ名	次回のバッチフォルダ名
Batch_0009	Batch_0010
Batch_9999	Batch_0001
Batch_000000001	Batch_000000001

格納例：

バッチ単位のフォルダーを使用した場合



## バッチスキャンを実行して SharePoint Server に格納したいとき

ScandAll PRO では、バッチスキャンを実行して、画像を SharePoint Server に格納できます。

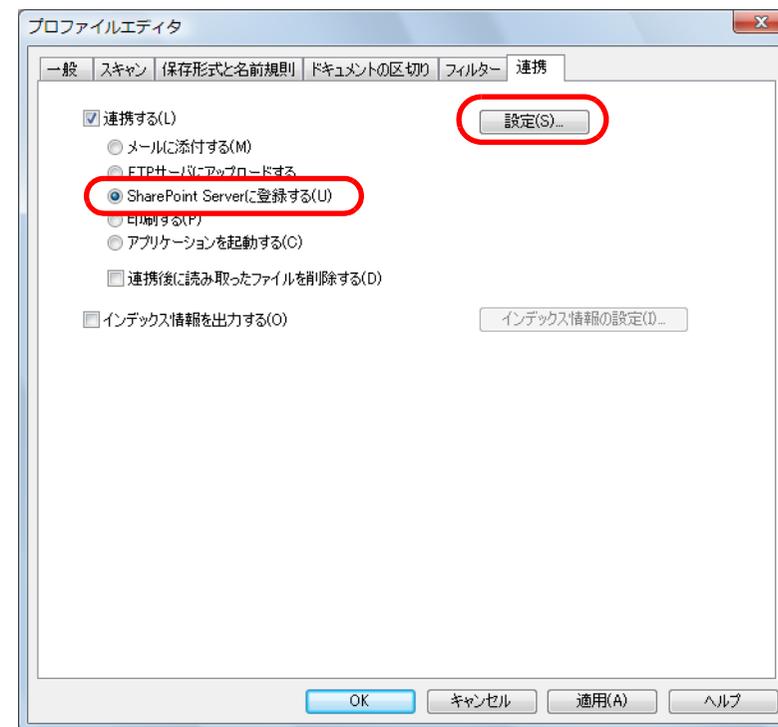
### 重要

SharePoint Server が動作しているサーバに ScandAll PRO のモジュールの一部をインストールする必要があります。Setup DVD-ROM またはダウンロードしたインストーラー内の ¥ScandAll¥ScandAll フォルダ一配下の「ScandAllPROsrv.exe」をサーバ上で実行してください。

次に手順を示します。

- 1 ScandAll PRO で新しいプロファイルを作成し、「プロファイルエディタ」画面を表示します。  
プロファイルを作成する方法については「[2.6 読み取り方法（バッチスキャン）](#)」（P.23）を参照してください。
- 2 「連携」タブをクリックし、「連携する」チェックボックスをチェックします。
- 3 「SharePoint Server に登録する」を選択し、[設定] ボタンをクリックします。
- 4 読み取った画像を SharePoint Server に格納する際の設定を行います。
- 5 [OK] ボタンをクリックします。  
⇒「プロファイルエディタ」画面に戻ります。
- 6 スキャナーに原稿をセットします。

3 「SharePoint Server に登録する」を選択し、[設定] ボタンをクリックします。



⇒「SharePoint Server 転送情報の設定」画面が表示されます。

- 4 読み取った画像を SharePoint Server に格納する際の設定を行います。
- 5 [OK] ボタンをクリックします。  
⇒「プロファイルエディタ」画面に戻ります。
- 6 スキャナーに原稿をセットします。

- 7** 作成したプロファイルを指定してバッチスキャンを実行します。
- ⇒ バッチスキャンを実行するとSharePoint Serverに画像が格納されます。

#### ヒント

詳細については、ScandAll PRO のヘルプを参照してください。

TOP

目次

索引

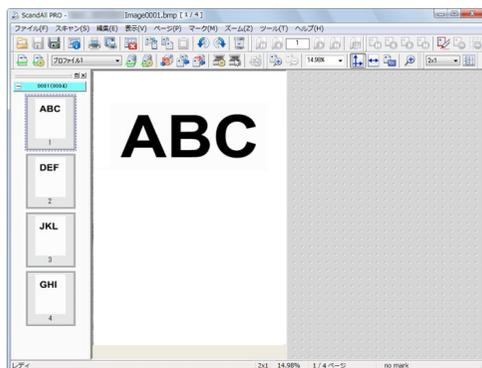
はじめに

お使いになる前に

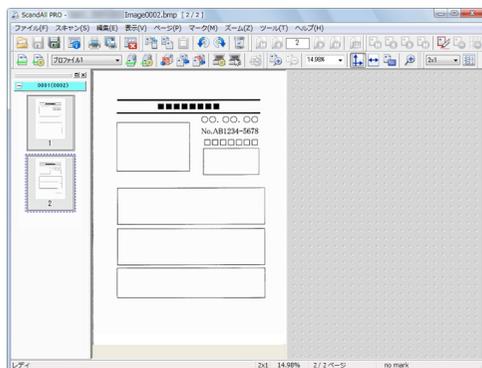
ScandAll PRO での読み取り方法

## 中断したバッチスキャンを再開したいとき

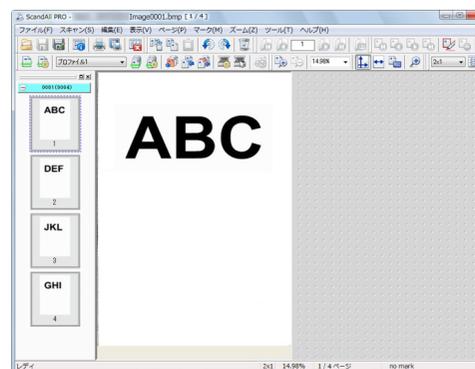
ScandAll PRO では、「バッチスキャン」を行った場合、バッチスキャンの作業状態が自動で一時保存されます。一時保存されたバッチスキャンの作業状態を復元することで、スキャン作業を再開できます。これにより、例えば中断したバッチスキャン作業を翌日に続けて行えます。また、急ぎのスキャン作業がある場合でも、現在の作業状態が保存されているので、割り込みでスキャンを実行したあと、元の作業を再開できます。



バッチスキャン作業  
(自動保存)



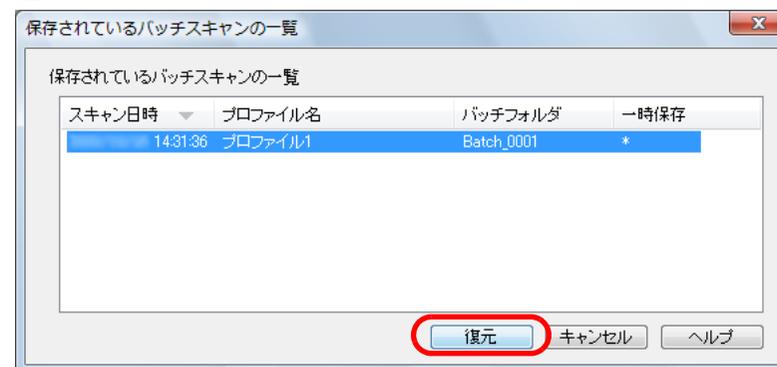
別のスキャン作業を実行



保存された作業状態を復元  
し作業再開

次に保存したバッチスキャンを復元する手順を示します。

- 1 「スキャン」メニュー → 「バッチスキャンの復元」をクリックします。  
⇒ 「保存されているバッチスキャンの一覧」画面が表示されます。
- 2 復元したいバッチスキャンをクリックし、[復元] ボタンをクリックします。



⇒ メイン画面にバッチスキャンの内容が復元され、追加スキャンや画像の編集などの作業を再開できます。

### ヒント

詳細については、ScandAll PRO のヘルプを参照してください。

## インデックス情報を出力しアプリケーションと連携したいとき

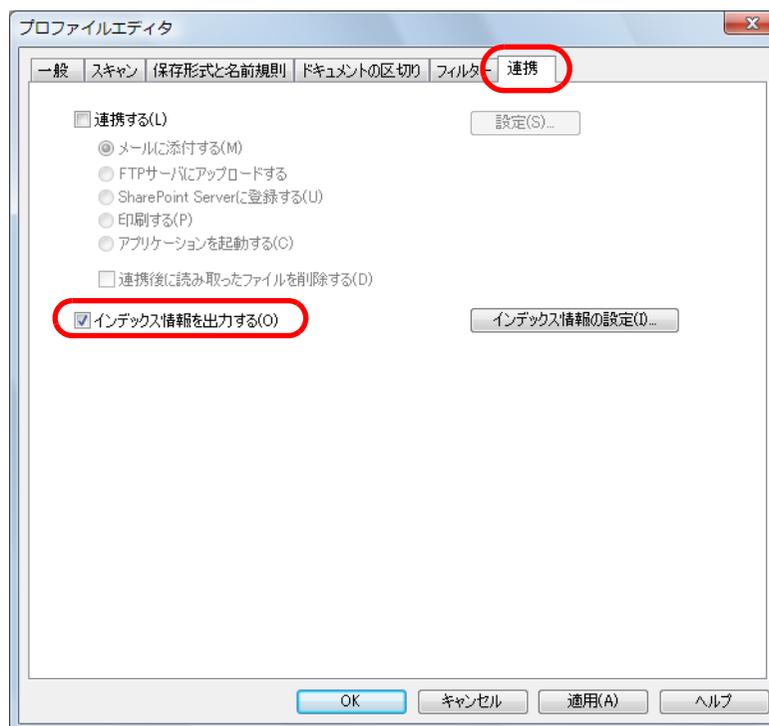
ScandAll PRO では、ゾーン OCR 結果およびバーコード認識結果をインデックス情報ファイルに出力できます。インデックス情報ファイルには、ほかにも画像のファイル名（フルパス）およびドキュメント内のページ番号などが出力されます。出力したインデックス情報ファイル名をパラメーターとして指定することで、ほかのアプリケーションと連携できます。

本機能によって、例えば、インデックス情報が付加された画像をサーバに登録するためのプロファイルが簡単に作成できます。

次に手順を示します。

- 1 ScandAll PRO で新しいプロファイルを作成し、「プロファイルエディタ」画面を表示します。  
プロファイルを作成する方法については「[2.6 読み取り方法（バッチスキャン）](#)」（P.23）を参照してください。
- 2 「プロファイルエディタ」画面でバーコードの設定、またはゾーン OCR の設定を行います。
  - バーコードの設定方法は、「[バーコードを使って原稿を分割したいとき](#)」（P.34）または「[バーコードの認識結果を使ってファイル名を設定したいとき](#)」（P.48）を参照してください。
  - ゾーン OCR の設定方法は、「[ゾーン OCR の認識結果を使ってファイル名を設定したいとき](#)」（P.44）を参照してください。

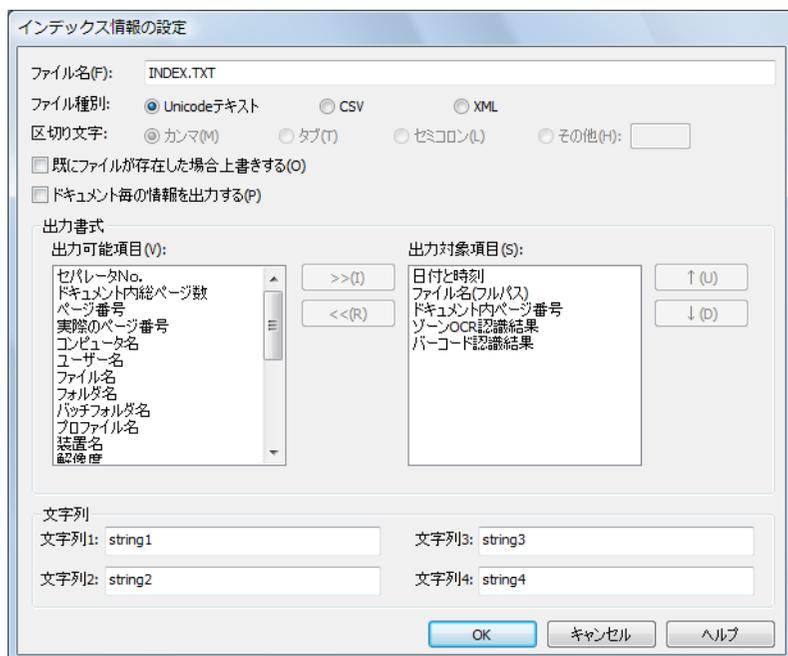
- 3 「プロファイルエディタ」画面の「連携」タブの「インデックス情報を出力する」チェックボックスをチェックします。



- 4 「インデックス情報の設定」ボタンをクリックします。  
⇒ 「インデックス情報の設定」画面が表示されます。

### ヒント

ここでは Premium 機能が有効な場合の「インデックス情報の設定」画面を例に説明しています。Premium 機能が無効な場合の画面については、ScandAll PRO のヘルプを参照してください。



## 5 出力するファイル名やファイル種別の設定を行います。

### ヒント

次の設定は、Premium 機能が有効な場合だけ使用できます。

- 区切り文字
- ドキュメント毎の情報を出力する
- 出力書式
- 文字列

Premium 機能を有効にする条件については、「[2.10 Premium 機能が有効になる条件](#)」(P.68)を参照してください。

## 6 [OK] ボタンをクリックします。 ⇒「プロファイルエディタ」画面に戻ります。

### ヒント

- インデックス情報ファイルは「プロファイルエディタ」画面の「保存形式と名前規則」タブの「フォルダ名」で指定したフォルダーに格納されます。また、「バッチフォルダを使用する」チェックボックスがチェックされている場合は、バッチフォルダーにインデックス情報ファイルが出力されます。
- インデックス情報ファイルは次の形式です。ここでは、デフォルトの出力項目を例に説明しています。ファイル形式の詳細は、ScandAll PRO のヘルプを参照してください。

#### - Unicode テキスト形式

```
YYYY/MM/DD hh:mm:ss [TAB] ファイル名 (フルパス)
[TAB] ドキュメント内ページ番号 [TAB] "ゾーン OCR
認識結果" [TAB] "バーコード認識結果"
```

#### - CSV 形式

```
"YYYY/MM/DD hh:mm:ss","ファイル名 (フルパス)
","ドキュメント内ページ番号","ゾーン OCR 認識結果
","バーコード認識結果"
```

## - XML 形式

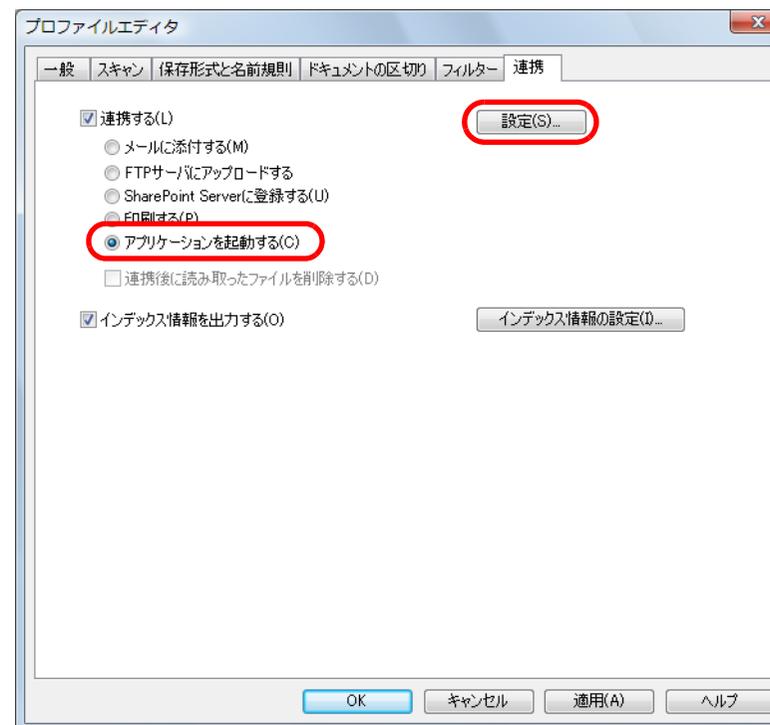
```

<?xml version = "1.0" encoding = "utf-8"?>
<root>
<page>
<item name = "Date&Time" value = "日付と時刻" />
<item name = "Full Path" value = "ファイル名 (フルパス)" />
<item name = "Page Number in Document" value = "ドキュメント内ページ番号" />
<item name = "Zone OCR" value = "ゾーン OCR認識結果" />
<item name = "Barcode" value = "バーコード認識結果" />
</page>
<page>
<item name = "Date&Time" value = "日付と時刻" />
<item name = "Full Path" value = "ファイル名 (フルパス)" />
<item name = "Page Number in Document" value = "ドキュメント内ページ番号" />
<item name = "Zone OCR" value = "ゾーン OCR認識結果" />
<item name = "Barcode" value = "バーコード認識結果" />
</page>
.
.
</root>

```

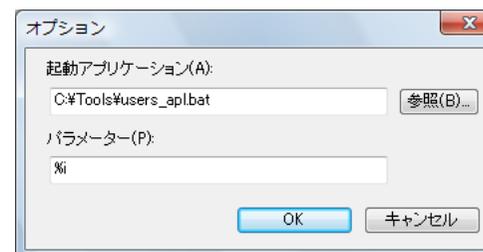
7 「連携」タブの「連携する」チェックボックスをチェックします。

8 「アプリケーションを起動する」を選択し、[設定] ボタンをクリックします。



⇒ 「オプション」画面が表示されます。

9 画面内の各項目を設定します。  
「起動アプリケーション」: 起動するアプリケーションの実行ファイル  
「パラメーター」: %i



**10** [OK] ボタンをクリックします。  
⇒「プロファイルエディタ」画面に戻ります。

**11** スキャナーに原稿をセットします。

**12** 作成したプロファイルを指定してバッチスキャンを実行します。  
⇒ 原稿が読み取られたあと、アプリケーションが起動され、ScandAll PRO が出力したインデックス情報ファイルが、パラメーターとして渡されます。

バッチスキャンを実行する方法については、「[2.6 読み取り方法 \(バッチスキャン\)](#)」(P.23) を参照してください。

TOP

目次

索引

はじめに

お使いになる  
前に

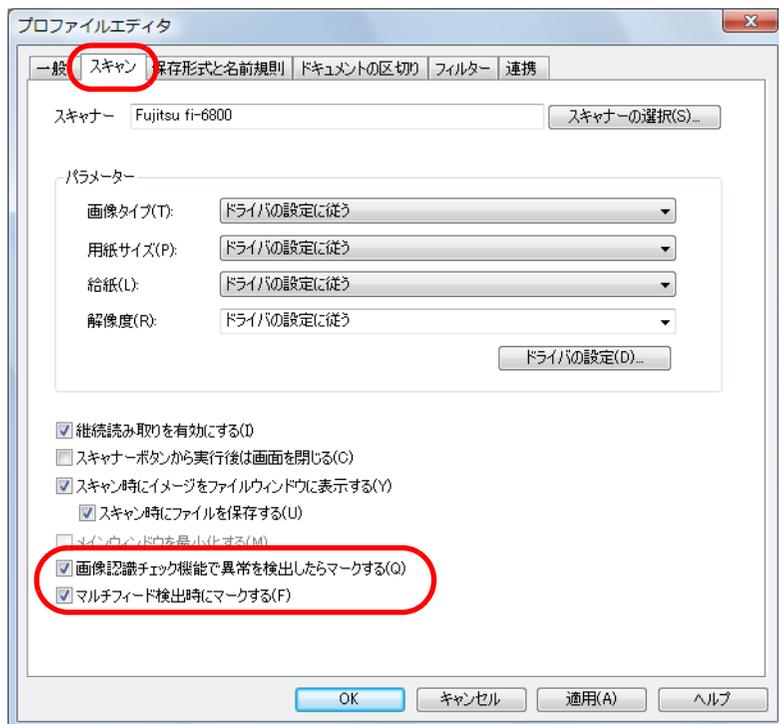
ScandAll PRO で  
の読み取り方法

## 読み取った原稿の異常を検出したいとき (fi-6800)

読み取った原稿で異常を検出した場合、自動的にサムネイルの背景色を変更し、該当する画像をユーザーにわかりやすく通知できます。

次に、異常を検出して通知するための手順を示します。

- 1 ScandAll PRO で新しいプロファイルを作成し、「プロファイルエディタ」画面を表示します。  
プロファイルを作成する方法については「2.6 読み取り方法 (バッチスキャン)」(P.23) を参照してください。
- 2 「スキャン」タブの「画像認識チェック機能で異常を検出したらマークする」および「マルチフィード検出時にマークする」のチェックボックスをチェックします。



- 「画像認識チェック機能で異常を検出したらマークする」チェックボックスをチェックした場合  
読み取った原稿に折れや破れがないかがチェックされます。異常が検出された場合、サムネイルの背景色が黄色のマークで通知されます。
  - 「マルチフィード検出時にマークする」チェックボックスをチェックした場合  
一度に2枚以上の原稿が重なって給紙されていないか、原稿の長さによる違いがないかがチェックされます。スキャン処理中にマルチフィードが検出された場合でも、スキャン処理を停止せずに処理が継続されます。すべてのスキャン処理終了後、マルチフィードが検出されたページのサムネイルの背景色が、赤色のマークで通知されます。
- 3 「スキャン」タブの「ドライバの設定」ボタンをクリックし、読み取り条件の設定を行います。
    - 「画像認識チェック機能で異常を検出したらマークする」チェックボックスをチェックした場合

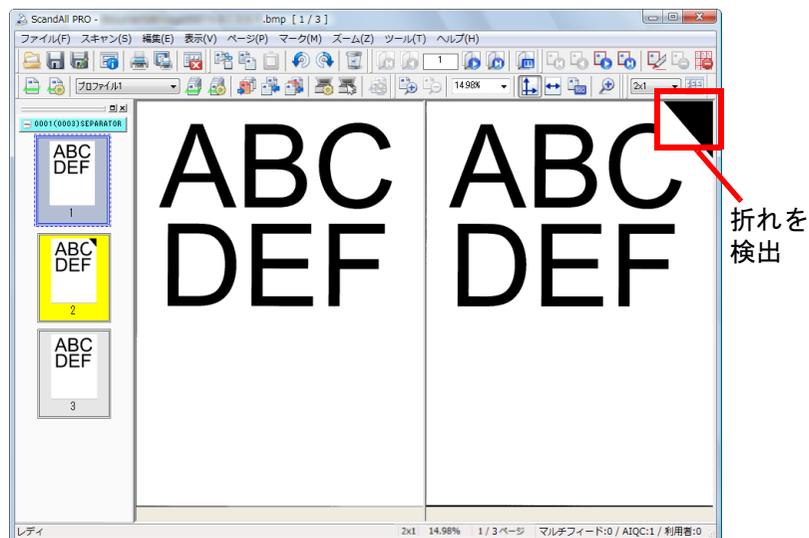
スキャナードライバ	設定内容
TWAIN ドライバ	[オプション] ボタンの「回転」タブの「自動傾き/サイズ検出」で「自動用紙サイズ検出」または「黒背景」を設定します。
ISIS ドライバ	次のどちらかを設定してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「メイン」タブの「クロッピング」を「自動設定」、「傾き補正」または「長尺帳票」に設定</li> <li>● 「用紙処理」タブの「背景」を「黒」に設定</li> </ul>

- 「マルチフィード検出時にマークする」チェックボックスを  
チェックした場合

スキャナードライバ	設定内容
TWAIN ドライバ	[オプション] ボタンの「動作」タブの「マルチフィード検出」で「重なりを検出（超音波）」、「長さの違いを検出」または「重なりと長さの違いを検出」を設定します。
ISIS ドライバ	「マルチフィード検出」タブの「マルチフィード検出」で「重なりを検出」または「長さの違いを検出」を設定します。

- 4 読み取り条件の設定が終わったら、TWAIN ドライバの場合は、[了解] ボタンをクリックします。ISIS ドライバの場合は、[OK] ボタンをクリックします。  
⇒「プロファイルエディタ」画面に戻ります。
- 5 「プロファイルエディタ」画面の [OK] ボタンをクリックし、プロファイルを登録します。
- 6 スキャナーに原稿をセットします。

- 7 作成したプロファイルを指定してバッチスキャンを実行します。  
⇒ 読み取った原稿に異常がある場合、該当するサムネイルの背景色が変わります。



### 重要

画像端部の形状を元に異常を検出しているため、原稿の形状や色味によっては、誤検出したり、検出できなかったりする場合があります。  
本機能を使用する場合でも、読み取り後の画像を確認してください。

### ヒント

異常が検出されたページは、「ページ」メニュー → 「差し替え」 → 「スキャン」で差し替えができます。

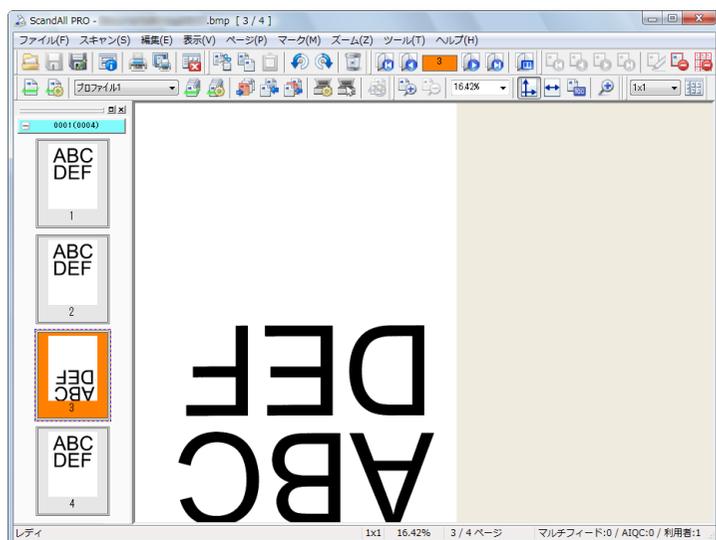
## 2.8 読み取り後の便利な機能

### サムネイルにマークを付加する

複数枚の原稿を読み取ったあとに、必要な画像を区別する場合などに便利な機能です。

次に手順を示します。

- 1 スキャナーに原稿をセットし、読み取りを実行します。
- 2 必要な画像のサムネイルを選択し、「マーク」メニュー→「マークを付加」を選択します。  
⇒ 選択したサムネイルの背景色が橙色に変わります。



#### ヒント

サムネイルを選択した状態で右クリックし、「選択されたページにマークを付加」を選択しても、背景色に橙色のマークを付加できます。

- 3 必要な画像にマークを付加したあと、「マーク」メニューから次の項目を選択して、操作します。

項目	説明
前マーク	選択しているサムネイルの前にあるマークが付加されたページを表示します。
次マーク	選択しているサムネイルの次にあるマークが付加されたページを表示します。
先頭マーク	マークが付加されている先頭のページを表示します。
最終マーク	マークが付加されている最終のページを表示します。
マークを解除	選択しているサムネイルのマークを解除します。
全てのマークを解除	マークが付加されている、すべてのサムネイルのマークを解除します。

#### ヒント

サムネイルを選択した状態で右クリックし、「選択されたページからマークを解除」を選択しても、付加されているマークを解除できます。

## 読み取った画像を SharePoint に格納する

読み取った画像を SharePoint に格納できます。

### 重要

Scan to Microsoft SharePoint がインストールされている必要があります。

次に手順を示します。

- 1 スキャナーに原稿をセットし、読み取りを実行します。
- 2 「ファイル」メニュー → 「送る」 → 「Microsoft SharePoint」を選択します。  
⇒ 「Scan to Microsoft SharePoint」画面が表示されます。
- 3 読み取った画像を SharePoint に格納します。  
詳細については、Scan to Microsoft SharePoint のユーザーズガイドを参照してください。

## 2.9 運用環境の移出入

ScandAll PRO では、運用環境を移出入できます。

運用環境には、バッチスキャンの設定（プロファイル）および各種設定（接続ドライブの情報など）が含まれます。プロファイルは、選択して移すことができます。

運用環境の移出入は、次の流れで行います。

- 1 移出機能で、ScandAll PRO の運用環境を取り出します。
- 2 移出したファイルを、移入機能でほかのコンピュータ内の ScandAll PRO に設定します。

### 運用環境を移出する

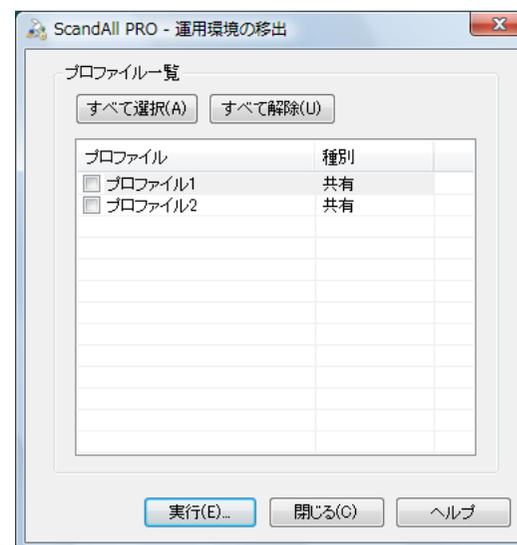
ScandAll PRO の運用環境を移出ファイル（.cab）に取り出します。

次に手順を示します。

#### 重要

- ScandAll PRO または Web パーツが動作している状態では、本機能を実行できません。ScandAll PRO または Web パーツを終了してから本機能を実行してください。  
Web パーツの詳細については、SharePoint のヘルプを参照してください。
- 現在ログインしているユーザーの ScandAll PRO の運用環境を移出します。ほかのユーザーの ScandAll PRO の運用環境は移出できません。

- 1 「スタート」メニュー → 「すべてのプログラム」 → 「Fujitsu ScandAll PRO」 → 「ツール」 → 「運用環境の移出」をクリックします。  
⇒ 「運用環境の移出」画面が表示され、ScandAll PRO に登録されているプロファイルが一覧で表示されます。



#### ヒント

「運用環境の移出」画面の詳細については、ScandAll PRO のヘルプを参照してください。

- 2 移出するプロファイルのチェックボックスをチェックします。
- 3 [実行] ボタンをクリックします。  
⇒ 「名前を付けて保存」画面が表示されます。

- 4 移出ファイルを保存する場所やファイル名を指定して、  
[保存] ボタンをクリックします。  
⇒ ScandAll PRO の運用環境が移出され、移出処理完了のメッセージ  
が表示されます。

- 5 [OK] ボタンをクリックします。

### ヒント

移出ファイルは、運用環境のバックアップとしても利用できま  
す。

## 運用環境を移入する

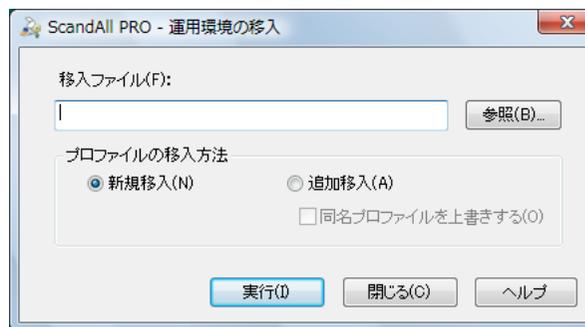
「運用環境を移出する」(P.65) で取り出した ScandAll PRO  
の運用環境を、ほかのコンピュータに設定します。

次に手順を示します。

### 重要

- 運用環境を移入する前に、移入先の運用環境のバックアップを作成  
することを推奨します。
- ScandAll PRO または Web パーツが動作している状態では本機能を  
実行できません。ScandAll PRO または Web パーツを終了してから  
本機能を実行してください。  
Web パーツの詳細については、SharePoint のヘルプを参照してく  
ださい。
- 移出した ScandAll PRO の運用環境は、同じ言語環境に移入してく  
ださい。移出したシステムと異なる言語環境に移入できません。

- 1 「スタート」メニュー → 「すべてのプログラム」 →  
「Fujitsu ScandAll PRO」 → 「ツール」 → 「運用環境の移  
入」をクリックします。  
⇒ 「運用環境の移入」画面が表示されます。



### ヒント

「運用環境の移入」画面の詳細については、ScandAll PRO のヘル  
プを参照してください。

- 2 移入ファイルを指定します。  
「運用環境を移出する」(P.65) で取り出したファイル (.cab) を指定  
してください。

移入ファイルを指定するには、次の方法があります。

- ファイルのパス名を入力する
- [参照] ボタンをクリックして指定する
- ドラッグ&ドロップ操作で指定する

### 重要

指定できるファイルのパス名は 255 バイトまでです。

### 3 プロファイルの移入方法を選択します。

移入方法には次の種類があります。

- 新規移入  
ScandAll PRO に現在登録されているプロファイルをすべて削除し、移入ファイル内のプロファイルに置き換えます。
- 追加移入  
移入ファイル内のプロファイルを ScandAll PRO に追加します。  
ScandAll PRO に現在登録されているプロファイルと、移入ファイル内のプロファイルに同名のプロファイルが存在していた場合は、「同名ファイルを上書きする」チェックボックスをチェックすると、移入ファイル内のプロファイルで上書きされます。

#### ヒント

追加移入を行うと、移出元に設定されたイベントがある場合、移入先にもそのイベントが設定されます（イベントは、「ツール」メニュー → 「設定」 → 「イベント」で設定されます）。

### 4 [実行] ボタンをクリックします。

⇒ 移入処理完了のメッセージが表示されます。

### 5 [OK] ボタンをクリックします。

#### ヒント

運用環境を移入すると、移入結果が作成されます。移入結果は、「ScandAllImpProfile.csv」というファイル名で、次のフォルダーに作成されます。

C:¥Users¥ユーザー名 ¥Documents¥ScandAllPro

## 2.10 Premium 機能が有効になる条件

Premium 機能は、Premium アップグレードオプションをインストールした場合に有効になります。

インストールする場合は、スキャナーに添付の Setup DVD-ROM からダウンロードサイトにアクセスします。ダウンロードサイトより Premium アップグレードオプションをダウンロードし、インストールしてください。

Setup DVD-ROM に Premium 機能の情報がない場合は、別途 Premium ライセンスの購入が必要です。

### 重要

ScandAll PRO V2 以降のセットアップ DVD を購入しインストールしても、Premium 機能は有効になりません。別途 Premium ライセンスの購入が必要です。

### ヒント

Premium アップグレードオプションがインストールされているかどうかは、次の手順で確認できます。

1 「ヘルプ」メニュー → 「バージョン情報」をクリックします。

⇒ 「バージョン情報」画面が表示されます。

2 ScandAll PRO のバージョンを確認します。

バージョンの末尾に「Premium」の表示があれば、Premium アップグレードオプションがインストールされています。

# 索引

<b>K</b>		
	Kofax VRS .....	10
<b>P</b>		
	PDF 形式で保存 .....	29
	Premium 機能 .....	68
<b>S</b>		
	Scan ボタン .....	41
	Send to ボタン .....	41
	SharePoint .....	64
	SharePoint Server .....	54
<b>い</b>		
	いろいろな読み取り方法 .....	26
	インデックス情報 .....	57
<b>う</b>		
	運用環境 .....	65
<b>か</b>		
	格納フォルダー .....	52
<b>き</b>		
	起動 .....	14
<b>け</b>		
	原稿の分割	
	バーコード .....	34
	パッチコード .....	31
<b>す</b>		
	スキャナードライバの選択 .....	16
	スキャナーの選択 .....	17
	スキャン .....	20
<b>と</b>		
	動作環境 .....	12
	特長 .....	11
	ドライバ	
	ISIS .....	16
	TWAIN .....	16
<b>は</b>		
	はじめに .....	3
	バッチスキャン .....	23
	バッチスキャンの再開 .....	56
	バッチスキャンの復元 .....	56
<b>ふ</b>		
	ファイル名の設定	
	ゾーン OCR .....	44
	バーコード .....	48
	プロファイルの作成 / 編集 .....	23

ほ

本書の使い方 .....	2
本書をお読みになる前に .....	5

よ

読み取り方一覧 .....	26
読み取り後の便利な機能 .....	63
読み取り条件の設定 .....	18
読み取り方法 .....	15
スキャン .....	19, 20
バッチスキャン .....	19, 23

TOP

目次

索引

はじめに

お使いになる  
前に

ScandAll PRO で  
の読み取り方法

---

ScandAll PRO V2.1 ユーザーズガイド

P2WW-2868-06Z0

発行日 2018 年 11 月

発行責任 株式会社 PFU

---

- 本書の内容は、改善のため予告なく変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社は一切その責を負いません。
- 無断転載を禁じます。